

平成 28 年度事業報告書

平成 29 年 5 月

横浜市立みなと赤十字病院

目 次

1	概要	1
1-1	施設概要	
1-2	建物図	
1-3	施設基準取得状況	
2	政策的医療	8
2-1	24時間365日の救急医療及び2次救急医療	
2-2	小児救急医療	
2-3	周産期救急医療	
2-4	精神科救急医療	
2-5	精神科身体合併症医療	
2-6	緩和ケア医療	
2-7	アレルギー疾患医療	
2-8	障害児者合併症医療	
2-9	災害時医療	
2-10	市民の健康危機への対応	
3	指定管理者独自の取組み	25
3-1	カスタマーリレーションセンター	
3-2	ハートセンター	
4	地域医療の質の向上に向けた取組み	31
4-1	医療における安全管理（安全）	
4-2	医療における安全管理（感染）	
4-3	医療倫理に基づく医療の提供	
4-4	地域医療機関との連携・支援（医療連携課）	
4-5	地域医療機関との連携・支援（療養・福祉相談室）	
4-6	市民委員会	
4-7	治験・受託研究	
4-8	患者・市民に対する相談・啓発活動	
4-9	患者サービス	
4-10	医療データベースの構築と情報提供	

5	職員研修	5 7
5-1	職員研修（医師）	
5-2	職員研修（看護部）	
5-3	職員研修（薬剤部）	
5-4	職員研修（医療技術部門）	
5-5	職員研修（事務部）	
6	院外からの研修受入れ	6 8
6-1	院外からの研修受入れ（看護部）	
6-2	院外からの研修受入れ（薬剤部）	
6-3	院外からの研修受入れ（リハビリテーション科部）	
7	職員	7 4
7-1	組織図	
7-2	職員配置状況	
8	施設管理	7 7
8-1	医療機器の整備状況	
8-2	施設設備改修報告	
8-3	施設設備管理報告	
8-4	外部委託	
9	経営報告	8 3
9-1	稼働状況等報告	
9-2	中央部門業務報告	
9-3	決算書	

1 概要

1-1 施設概要

1 名称

横浜市立みなと赤十字病院

2 開設者

横浜市長（指定管理者として日本赤十字社が運営）

3 開設年月日

平成 17 年 4 月 1 日

4 病床数

634 床（一般 584 床、精神 50 床）

5 標榜科

内科、内分泌内科、血液内科、腎臓内科、リウマチ科、緩和ケア内科、呼吸器内科、消化器内科、肝臓内科、循環器内科、神経内科、アレルギー科、精神科、小児科、外科、消化器外科、大腸外科、肝臓外科、乳腺外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、歯科口腔外科、救急科、病理診断科

以上 36 科

6 沿革

- ・平成 15 年 3 月 横浜市立病院あり方検討委員会（横浜市長の諮問機関）が新病院を公設民営とする最終答申を提出
- ・平成 15 年 9 月 横浜市会で新病院運営の公設民営化を決定
- ・平成 15 年 11 月 横浜市が指定管理者評価委員会を設置
日本赤十字社が指定管理者提案申込書を横浜市に提出
- ・平成 16 年 1 月 評価委員会が提案書による競争の結果として、「指定管理者として日本赤十字社がふさわしい」との評価報告書を市長に提出
- ・平成 16 年 2 月 横浜市会で日本赤十字社を指定管理者として決定
- ・平成 16 年 9 月 横浜市会で新病院名称を「横浜市立みなと赤十字病院」に決定
- ・平成 17 年 4 月 横浜市立みなと赤十字病院が開院 初代院長 西岡 清
病床数 584 床、23 診療科
瀬谷区にあった横浜市小児アレルギーセンター（平成

- 17年3月31日閉院)の機能を移転
- ・平成18年4月 精神科診療開始(入院は平成19年5月から)
 - ・平成18年9月 地域医療機関向け広報誌「みなとからの風」発刊
 - ・平成19年3月 病院機能評価 Ver5.0 取得
 - ・平成19年5月 精神科50床運営開始、病床数634床
 - ・平成19年7月 新潟県中越沖地震発生、救護班派遣
 - ・平成21年2月 地域医療支援病院承認
 - ・平成21年4月 救命救急センターの指定
 - ・平成22年3月 神奈川県 DMAT 指定病院
 - ・平成22年7月 第2代院長 四宮 謙一 就任
 - ・平成23年3月 東日本大震災発生、救護班・神奈川 DMAT 派遣
災害備蓄倉庫竣工
 - ・平成23年5月 病院広報誌「みなと赤十字病院だより」発刊
 - ・平成23年11月 がんセンター、がん相談支援センター開設
 - ・平成24年3月 病院機能評価 Ver6.0 取得
 - ・平成24年4月 地域がん診療連携拠点病院の指定
 - ・平成24年7月 地域周産期母子医療センターの認定
 - ・平成24年11月 病院広報誌リニューアル「みんなのみなと」発刊
 - ・平成25年1月 PET/CT 導入
 - ・平成25年4月 標榜科を23診療科から36診療科へ細分化
 - ・平成26年2月 手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」導入
 - ・平成26年3月 神奈川県 DMAT-L 指定病院
 - ・平成26年11月 海難事故や災害時に、当院ヘリポートの使用を第三管区
海上保安本部と合意
 - ・平成27年4月 臨床試験支援センター開設
リハビリテーションセンター開設
外傷センター開設
心臓病センター開設
 - ・平成27年9月 平成27年9月関東・東北豪雨発生、救護班・神奈川 DMAT
派遣
 - ・平成27年10月 カスタマーリレーションセンター開設
新MRI導入(PHILIPS社製 Ingenia 3.0T CX)
 - ・平成28年4月 平成28年4月熊本地震発生、救護班派遣
 - ・平成28年5月 東京国際空港(羽田空港)大韓航空機火災事故に救護班を
派遣
 - ・平成29年3月 病院機能評価(一般病院23rdG:Ver1.1)取得

1-2 建物図

8階	病棟 コンシェルジュデスク
7階	A病棟 B病棟 C病棟 D病棟
6階	A病棟 B病棟 C病棟 D病棟 患者図書室
5階	A病棟 C病棟 D病棟 NICU 透析室 精神科外来 めまい・平衡神経科外来 化学療法センター スキルラボ 理容室 コンビニエンスストア
4階	電気室・機械室
3階	管理部門（院長室 副院長室 看護部長室 事務部長室） 救急病棟 ICU HCU CCU 手術室 心臓カテーテル室 医局 医局図書室 看護部 事務部 臨床教育研修センター 医療情報センター 会議室
2階	健診センター アレルギーセンター 緩和ケアセンター 乳腺外科外来 放射線科（X線撮影 CT MRI 血管撮影 心臓カテーテル） 内視鏡検査室 検査部（検体 輸血 病理 細菌） 調度課・SPD ME 栄養課 調理室
1階	総合内科（内分泌内科、リウマチ科、血液内科） 消化器内科 外科 心臓病センター（循環器内科、 心臓血管外科） 脳神経センター（神経内科、脳神経外科） 麻酔科 呼吸器病センター（呼吸器内 科・呼吸器外科） 整形外科 泌尿器科 皮膚科 腎臓内科 耳鼻いんこう科 眼科 小児科 産婦人科 形成外科 歯科口腔外科 リハビリテーションセンター 薬剤部 中央検査（採血 尿検査 心電図 超音波 筋電図 脳波） 救急外来（受付 診察室 処置室 X線撮影 CT） 総合案内 療養・福祉相談室 医療連携センター 栄養指導室 初診受付 再診受付 再来受付コーナー 証明書発行受付 中央待合ホール 自動精算機 入院業務課 外来業務課 正面入口 時間外入口 緩和ケアセンター入口 防災センター レストラン カフェ ATM コンビニエンスストア
B1階	放射線科（RI リニアック PET/CT） 地下出入口 地下駐車場 霊安室 職員食堂
B2階	免震ピット

1-3 施設基準取得状況

1 基本診療科

地域歯科診療支援病院歯科初診料 歯科外来診療環境体制加算
歯科診療特別対応連携加算 一般病棟入院基本料（7対1）
総合入院体制加算1 超急性期脳卒中加算
診療録管理体制加算1 医師事務作業補助体制加算2（40対1）
急性期看護補助体制加算（50対1） 看護職員夜間配置加算（16対1）
療養環境加算 重症者等療養環境特別加算 無菌治療室管理加算1
緩和ケア診療加算 精神科応急入院施設管理加算 精神科リエゾンチーム加算
摂食障害入院医療管理加算 栄養サポートチーム加算 医療安全対策加算1
感染防止対策加算1 患者サポート体制充実加算 褥瘡ハイリスク患者ケア加算
ハイリスク妊娠管理加算 ハイリスク分娩管理加算
精神科救急搬送患者地域連携紹介加算 呼吸ケアチーム加算
病棟薬剤業務実施加算1 病棟薬剤業務実施加算2 データ提出加算2
退院支援加算1、3 精神疾患診療体制加算 地域歯科診療支援病院入院加算
救命救急入院料1 特定集中治療室管理料1 ハイケアユニット入院医療管理料1
新生児特定集中治療室管理料2 小児入院医療管理料4 緩和ケア病棟入院料
精神科救急・合併症入院料

2 特掲診療料

糖尿病合併症管理料
がん性疼痛緩和指導管理料 がん患者指導管理料1 がん患者指導管理料2
がん患者指導管理料3 外来緩和ケア管理料 糖尿病透析予防指導管理料
地域連携小児夜間・休日診療料2 院内トリアージ実施料
外来放射線照射診療料 ニコチン依存症管理料 開放型病院共同指導料
ハイリスク妊産婦共同管理料（I） がん治療連携計画策定料
肝炎インターフェロン治療計画料 薬剤管理指導料 医療機器安全管理料1
医療機器安全管理料2 医療機器安全管理料（歯科） 歯科治療総合医療管理料
持続血糖測定器加算 HPV核酸検出及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
検体検査管理加算I 検体検査管理加算II
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
時間内歩行試験およびシャトルウォーキングテスト
胎児心エコー法 ヘッドアップティルト試験 皮下連続式グルコース測定
長期継続頭蓋内脳波検査 神経学的検査 補聴器適合検査
ロービジョン検査判断料 小児食物アレルギー負荷検査 内服・点滴誘発試験
センチネルリンパ節生検（片側） 有床義歯咀嚼機能検査 画像診断管理加算1
ポジトロン断層撮影 ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
CT撮影及びMRI撮影 抗悪性腫瘍剤処方管理加算 外来化学療法加算1

無菌製剤処理料 心大血管疾患リハビリテーション科（Ⅰ）
 脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ） 運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
 呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ） がん患者リハビリテーション料
 歯科口腔リハビリテーション料2
 抗精神病特定薬剤治療指導管理料（治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。）
 医療保護入院等診療料
 処置の休日加算1 処置の時間外加算1
 処置の深夜加算1 透析液水質確保加算1 下肢末梢動脈疾患指導管理加算
 手術用顕微鏡加算 CAD/CAM冠
 皮膚悪性腫瘍切除術（悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。）
 組織拡張器による再建手術（一連につき）（乳房（再建手術）の場合に限る。）
 脳刺激装置植込術（頭蓋内電極植込術を含む。）及び脳刺激装置交換術
 脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
 乳腺悪性腫瘍手術（乳がんセンチネルリンパ節加算1及び又は乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る。）
 乳腺悪性腫瘍手術（乳頭乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴わないもの）及び乳頭乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴うもの）
 ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）
 経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの） 経皮的中隔心筋焼灼術
 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
 両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
 植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術
 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
 大動脈バルーンパンピング法（IABP法） 胆管悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る。） 体外衝撃波胆石破碎術
 腹腔鏡下肝切除術 体外衝撃波膵石破碎術 腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術 体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
 膀胱水圧拡張術 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術 腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術
 人工尿道括約筋植込・置換術
 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術支援機器を用いるもの）
 腹腔鏡下仙骨腔固定術
 手術の休日加算1、時間外加算1及び手術の深夜加算1
 胃瘻造設術（内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下造設術を含む。）
 輸血管管理料Ⅰ 輸血適正使用加算 自己生体組織接着剤作成術
 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
 胃瘻造設時嚥下機能評価加算 歯周組織再生誘導手術
 広範囲顎骨支持型装置埋入手術 歯根端切除手術の注3
 麻酔管理料（Ⅰ） 麻酔管理料（Ⅱ） 放射線治療専任加算 外来放射線治療加算

高エネルギー放射線治療 1回線量増加加算 画像誘導放射線治療加算（IGRT）
体外照射呼吸性移動対策加算 定位放射線治療
定位放射線治療呼吸性移動対策加算 病理診断管理加算 1
クラウン・ブリッジ維持管理料

3 入院時食事療養

入院時食事療養 I 特別食加算 食堂加算

4 評価療養

先進医療（超音波骨折治療法） 医薬品の治験に係る診療
医療機器の治験に係る診療
医薬品医療機器等法に基づく承認又は認証を受けた医療機器又は体外診断用医薬品

5 選定療養

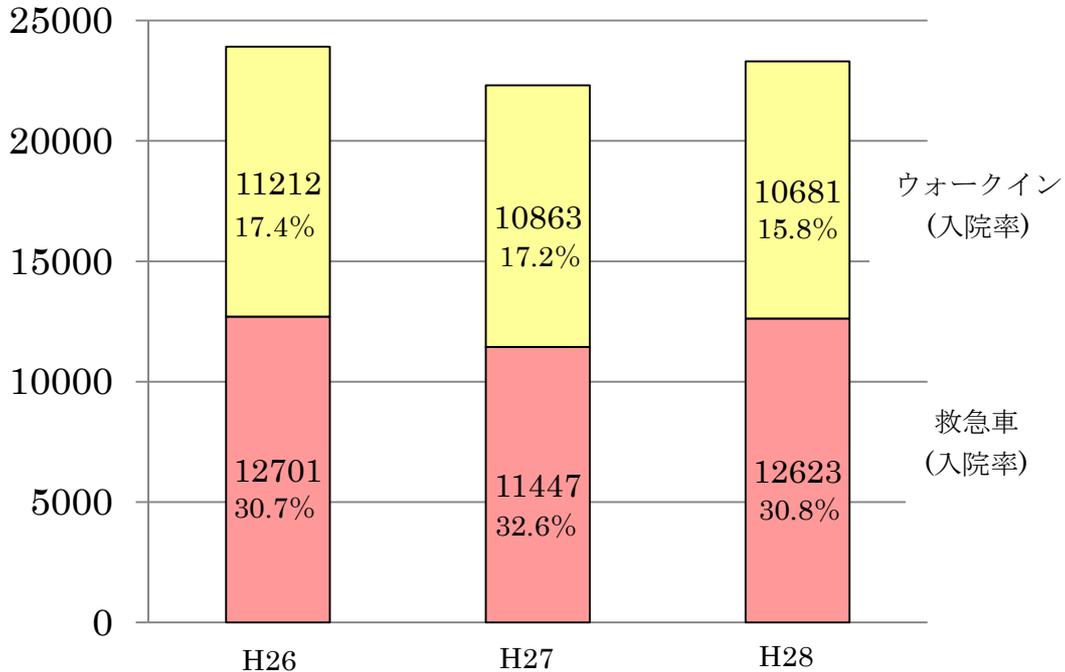
病床数が200床以上の病院について受けた初診・再診（医科・歯科）
特別の療養環境の提供 入院期間が180日を超える入院

2 政策的医療

2-1 24時間365日の救急医療

1 データ

来院経路別救急患者数と入院率



2 成果

救急車による受入患者数はH26年に全国一位であったが、翌年はやや減少し全国四位であった。昨年度は盛り返して再び全国一位であったことがわかった。数や順位を目標に医療を行っているわけではないが、救急車の搬入依頼をできるだけ断らないことを心掛け、またそのための準備・手配を行っての結果であると考えている。一方ウォークイン患者は漸減し、かつ入院率も低下傾向にあるが、これを特別に誘導したわけでもないため理由は不明で、今後も注目したい。

3 課題

当院は医学生の間では臨床研修先として非常に人気がある。その理由には、多くの救急症例を経験できることにありと皆一様に答える。しかし若い医師が診療してもミスや事故はあってはならない。そのための教育に当院は多くの資源や努力を費やしているが、まだまだ改善の余地がある。

断らない救急を実践していると他院で受け入れてもらえない問題患者を多く受けることになるのも引き続けている課題である。酩酊者を中心とした職員への暴力暴言迷惑行為は年々確実に増加している。

2-2 小児救急医療

1 データ・成果

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
小児科救急患者数	3,266 件	3,314 件	3,076 件
うち、入院患者数	411 件	489 件	410 件
救急車受入件数	578 件	740 件	879 件
入院患者数	1,352 人	1,302 人	1,106 人
児童虐待防止委員会	定例会 1 回 臨時 12 回	定例会 1 回 臨時 3 回	定例会 2 回 臨時 3 回

救急患者数の減少は予防接種の普及による急性疾患の減少によるものである。地域の小児救急患者には適切に対応している。予防接種の普及により小児科の入院患者の疾病構造が変化したことが報告されている。過去 10 年間で小児入院患者数の減少が報告されている。20%と推定されているが、小児科を閉鎖した施設は対象外のため、実態は 20%以上の減少と推定される。

平成 22 年度～平成 28 年度の母体搬送受入数及び新生児搬送受入数													
母体搬送受入													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成 22 年度	0	1	0	0	1	1	0	1	2	1	1	3	11
平成 23 年度	1	0	1	3	1	2	2	0	1	0	0	2	13
平成 24 年度	0	0	1	0	0	1	2	3	3	0	4	0	14
平成 25 年度	0	4	2	2	1	2	0	0	2	0	3	0	16
平成 26 年度	4	1	1	5	3	0	3	3	0	1	0	2	23
平成 27 年度	3	3	1	1	1	0	1	1	1	1	0	0	13
平成 28 年度	0	0	0	4	1	0	1	3	2	3	0	0	14
新生児搬送受入													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成 22 年度	3	2	0	1	1	1	1	1	3	3	1	1	18
平成 23 年度	0	1	1	1	3	2	0	2	0	2	0	0	12
平成 24 年度	4	1	1	3	1	1	0	0	1	0	0	1	13
平成 25 年度	0	0	1	0	1	0	0	0	2	0	0	0	4
平成 26 年度	0	0	2	2	0	0	1	1	1	0	0	0	7
平成 27 年度	1	2	0	0	0	0	0	1	1	1	0	1	7
平成 28 年度	1	2	2	0	2	0	1	0	1	1	1	1	12

神奈川県周産期医療体制整備計画等により横浜市内の NICU は充足している。このため、総合周産期母子医療センター（基幹病院）で受入困難な新生児搬送は減少している。基幹病院の NICU に余裕があるため基幹病院から中核病院へのバックトランスファーも減少していると考えられる（数字は県が把握）。さらに産科の分娩制限が加わり、当院の NICU 利用率は極端に低下している。

救急患者は減少しているが、地域では支援が必要な家庭は増加していると推定されている。外傷を主訴に救急外来を受診した患児・家族のチェックリストを用いた要支援家庭のスクリーニングを実施している。

2 課題

予防接種の普及、少子化による小児急性期疾患患者の減少は今後も続くことが予想される。最近の統計では、この 10 年で 20% は減少している。小児科を 24 時間、365 日の小児救急対応に必要なマンパワーには変わりはないが、患者数の減少による収益減少への対応が課題である。

2-3 周産期救急医療

1 データ

周産期救急医療は主に母体搬送、新生児搬送に関わる事である。また、未受診妊婦のいわゆる飛び込み分娩、自宅分娩、なども含まれる。また、精神疾患、身体疾患合併妊婦の妊娠中期以降、必要時からの受け入れも病病連携または病診連携として行っており、これは広義の周産期救急に当てはまる。

当院の周産期担当（産婦人科、小児科）は「横浜市民が安心して分娩できる環境を整えることで、地域の周産期医療に貢献する」という目標を掲げ、診療にあたっている。

平成 24 年 7 月 25 日付で当院は地域周産期母子医療センターに指定され、産科と小児科（NICU）の協力のもと、他の産科施設からの母体搬送の受け入れを中心として、周産期に係る比較的高度な医療行為を行うことができる医療施設として横浜市の周産期医療の一翼を担っている。

なお、母体搬送受け入れの基準は妊娠 30 週以降、推定体重 1000g 以上としている。

<母体搬送受け入れ数>

平成 25 年度 19 例

平成 26 年度 23 例

平成 27 年度 24 例

平成 28 年度 9 例

<飛び込み分娩数>

平成 25 年度 1 例

平成 26 年度 1 例

平成 27 年度 1 例

平成 28 年度 1 例

<分娩総数>

平成 25 年度 958 例

平成 26 年度 1071 例

平成 27 年度 964 例

平成 28 年度 783 例

2 成果

分娩総数は 800 件前後である。常勤医師 5 名（うち 2 名は当直なし）で、月平均 70 例の分娩を取り扱っている。

産科は 24 時間 365 日の体制で当直を組み、緊急手術もいつでも対応できる体制をとっている。これには、産科、小児科のみならず、手術室、麻酔科も協力の上で成り立っている事である。

「横浜市民が安心して分娩できる環境を整えることで、地域の周産期医療

に貢献する」という、事業目標はおおむね達成していると考えている。

3 課題

慢性的な医師不足により分娩制限を行う必要がある。ハード面、医師数、助産師数から安全面を考慮し限界がある。次年度以降の取り組みとしては、この点の改善を図り、将来的な分娩数の増加が安全が確保されたうえで可能となるような体制を作る必要がある。そのためには、産科常勤医師 10 名以上、麻酔科当直体制などが必要である。依然として産科常勤医師を安定的に確保する見通しは立っておらず、大学からの派遣と後期研修医の就職とその教育が必要である。助産師については、安定して確保しているものの、分娩数の増加に対応し、安全な分娩を行うためには、より多くの助産師を確保することが望まれる。また、無痛分娩、院内助産、などはすでに施行しているが、更に充実させることにより分娩の質の向上、満足度の向上もはかりたい。

2-4 精神科救急医療

1 データ

平成 28 年度実績

	受け入れ数		入院形態			転帰		
	受診数	入院数	措置	医保	任意	転院	退院	その他
3次救急	34	27	24	3	0	19	8	0
2次救急	14	12	—	12	0	11	1	0

・平均在院日数：24.5日（院内後方を除いた平均在院日数：27.0日）

精神科救急受診数の推移（年度別）

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
3次救急	37	35	42	39	51	44	26	31	34
2次救急	7	19	12	9	7	9	13	13	14

2 成果

- ・実施要項に準じて人員を配置し、精神科救急医療を滞りなく行えた。
- ・政策医療とは別に、自殺企図例などで救急病棟より精神科病棟に入院する例もある。

3 課題

- ・平均在院日数がやや長い。
→速やかな後方転送を目指し、精神症状のコントロールに努め、円滑な転院に向けての働きかけを行う。
- ・年度により精神科医師に欠員がでることがあった。
→精神保健指定医の安定確保に努める。
- ・救急部を受診したが身体的な問題はなく、精神症状のみ入院適応がある患者がいる。当院の精神科病棟が満床の場合に、受け入れ先の調整に苦慮することがある。

2-5 精神科身体合併症医療

1 データ

		H26 年度	H27 年度	H28 年度
身体合併症事業計		89	105	128
当院受入数		64	84	111
入院数		43	64	89
平均在院日数		24.7	19.1	21.1
転 帰	依頼元病院	38	57	74
	他病院	4	3	5
	退院	0	1	2
	入院中	0	0	0
	死亡	1	3	8

2 成果

- ・平成 20 年度以降、当院の年間の受け入れ数は身体合併症転院事業の 7-8 割にあたる。平成 28 年度は 100 件の大台に達した。
- ・この他、時間外に行政を介さずに受け入れた症例もある。

3 課題

- ・引き続き、身体科医師の協力体制のもとで同事業を円滑に進める。
- ・より多くの患者に必要な医療を提供できるよう、入院期間ができるだけ短期間となるよう心がける。

2-6 緩和ケア医療

1 データ

(1) 緩和ケア病棟実績

		平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
入院患者	実数	231 名	287 名	262 名
	延べ数	6817 名	7500 名	7951 名
	緊急入院数	14 名	17 名	10 名
平均在院日数		30.0 日	26.2 日	30.3 日
患者実数	男	138 名	169 名	151 名
	女	93 名	118 名	111 名
平均年齢		73.3 歳	72.5 歳	72.9 歳
	退院	227 名	267 名	263 名
退院内訳	死亡	197 名	234 名	237 名
稼働率		73.3%	82.2%	87.1%
緩和ケア病棟への入院経路	院内転棟	118 名	148 名	110 名
	市内医療機関からの紹介	76 名	139 名	150 名
ボランティア延べ人数		80 名	72 名	123 名

(2) 緩和ケアチーム実績

		平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
緩和ケアチームへの依頼数	新規	106 件	144 件	160 件
	継続	6 件	5 件	5 件
	延べ件数	1513 件	2178 件	2314 件
麻薬管理加算		85 名	123 名	118 件
入院精神療法加算		40 名	27 名	25 件

緩和ケアチームへの依頼内容

疼痛・嘔気・呼吸困難などの身体ケアが 66%

せん妄・抑うつ・不眠などの精神的ケアが 6%

2 成果

- ・緩和ケア内科医 1 名の増員があり、緩和ケア病棟において、緩和ケア内科医が全患者の主治医となり、病棟スタッフとの連携で、患者・家族の気持ちに沿っての均一的な病棟運営を行った。
- ・病棟稼働率も目標の 85% を達成できた。
- ・神奈川県がん診療連携協議会の緩和ケア部会に参加し、他の病院とのピアレビューも行い、緩和ケアの質の向上、他の病院との連携を得られた。
- ・県内でも少ない専門医の応援をもらい、病棟・チーム・外来での知識、技術、連携の向上を目指している。
- ・苦痛のスクリーニングでは、対象を、肺癌・耳鼻科癌の入院にも広げた。
- ・院内での緩和ケアの普及のため、院内・院外スタッフの協力を得て、緩和ケア研修会を平成 27 年 7 月と 11 月の 2 回、開催した。
- ・緩和ケア講演会を平成 28 年 10 月に開催し、緩和ケアの啓蒙・普及に貢献した。
- ・横浜・川崎病病連携会の下部組織として、緩和ケアを行う 7 病院が集って、「横浜みんなの緩和ケア勉強会」を、平成 28 年 6 月と 11 月に 2 回、共同開催し、ワークショップを含め、知識の向上と、交流を図った。

3 課題

- ・緩和ケア病棟の安定した運営と、さらなる稼働率向上(90%以上)を目指す。
- ・緩和ケアの啓蒙・普及のため、院内スタッフ協力者も増やして、緩和ケア研修会を通し、がん診療に携わるすべての医療スタッフの基本的緩和ケアの知識の普及を目指す。
- ・すべての入院がん患者の苦痛の発見、対応を目指し、苦痛のスクリーニングの対象をさらに拡大していく。
- ・神奈川県がん診療連携協議会緩和ケア部会の他の参加病院との連携を深めながら、専門的緩和ケアへのアクセスの改善を目指す。
- ・研修会、講演会、勉強会等の開催を通し、緩和ケアの啓蒙、普及に引き続き貢献する。かつ、地域の医療機関との連携の拡大、及び絆がさらに深まることを目指す。
- ・院内外医療機関との連携の下、在宅医療と入院において、切れ目のない医療が提供できるよう、チーム医療の充実を図る。

2-7 アレルギー疾患医療

1 データ(平成26~28年比較)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
外来アレルギー患者数 (延べ数)	16,143人	18,540人	20,217人
呼気一酸化窒素測定	3,305件	3,718件	4,201件
気道過敏性試験	71件	82件	111件
プリックテスト	127件	162件	223件
エピペン処方数	229件	316件	282件
喘息カンファレンス	6回	5回	6回
食物・薬物アレルギー カンファレンス	6回	6回	6回
食物アレルギー研修	39回	38回	26回
講演会	5回	4回	3回
みなとセミナー	2回	2回	4回
市民フォーラム	2回	2回	2回
患者教室	11回	11回	11回
小児喘息キャンプ	1回	1回	1回
誌上発表	18件	19件	18件
学会発表	25件	29件	26件
新薬開発治験	10件	13件	17件
自主臨床試験	22件	30件	31件

2 成果

市民への相談・情報提供、啓発活動については、前年度とほぼ同様の成果となった。保育所や学校等の職員に対する食物アレルギー指導研修業務の拡大のために、アレルギー専門小児科医師3名の協力を確保し、依頼元からの要望に柔軟に対応した。臨床研究については、継続中のARMS研究(遠隔医療)とEARTH研究(環境アレルギー)の組み合わせによる「個別喘息予報」が28年度より配信開始となっている。診療については、アレルギー科常勤医師の増員により患者数の増加に繋がった。地域医療連携についても舌下免疫療法を目的とした病診連携会と小児アレルギー診療連絡協議会による連携強化と拡大を図ることができた。

3 課題

日本専門医機構の指導により来年度に開始予定の新専門医制度下、アレルギーセンターがアレルギー専門医研修基幹施設に認定されるべく、引き続きアレルギー科、呼吸器内科、皮膚科、耳鼻咽喉科、リウマチ内科のアレルギー専門医・指導医、リウマチ専門医・指導医の確保と育成に努める必要がある。

2-8 障害児者合併症医療

1 データ

	H26 年度	H27 年度	H28 年度
入院患者延べ人数	260 名	102 名	202 名
入院患者実人数	12 名	12 名	9 名
1 患者あたり入院回数	1～5 回	1～4 回	1～8 回
年齢	2～40 歳	5～39 歳	4～37 歳
メディカルショートステイ利用者数	9 名	8 名	14 名
障害児者委員会	年 4 回 開催	年 3 回 開催	年 3 回 開催

2 成果

当院において行われる障害児者への医療提供が円滑に行われることを目的とし、障害児者医療検討委員会を開催し、その内容を検討した。

メディカルショートステイの円滑な対応のための実務者研修(看護師 1 名、リハビリ 2 名)に参加した。横浜医療福祉センター港南を施設見学した。

3 現状と課題

旧横浜市立港湾病院からの継続医療患者への適切な医療の提供、障害児者医療への職員の研修啓発に努める。継続医療患者の一部は、平成 28 年度に開設した横浜医療福祉センター港南に入所した。また、地域の障害児者医療を担う医療機関との連携を図っていく。

横浜市重症心身障害児者メディカルショートステイシステムの協力病院として対象患者の受け入れを継続する。

2-9 災害時医療

1 救護活動等の状況

(1) 熊本地震災害

ア) 救護班

- ・派遣期間 平成28年4月18日(月)～24日(日)
- ・派遣場所 熊本県内
- ・活動内容 益城町総合体育館救護所にて診療活動、熊本赤十字病院救急外来での診療支援、南阿蘇中学校での環境整備活動等
- ・派遣職員 医師2名、看護師3名、薬剤師1名、主事2名 計8名

イ) 被災者健康支援事業

- ・派遣期間 平成28年7月11日(月)～16日(土)
- ・派遣場所 熊本県内 西原村構造改革センター 他
- ・活動内容 熊本県内で避難生活を送る被災者、特に高齢者、子ども、妊産婦、慢性疾患患者等の要配慮者に対するケア
- ・派遣職員 看護師2名

(2) 東京国際空港(羽田空港)大韓航空機火災事故

ア) 救護班

- ・派遣日 平成28年5月27日(金)
- ・派遣場所 東京国際空港
- ・活動内容 国際ターミナル内で、事故機から避難した乗客への医療救護活動
- ・派遣職員 医師2名、看護師3名、主事2名 計7名

(3) 災害救護に関する訓練・研修会等への実施・参加状況

開催日	訓練・研修会	会場	参加者
4月11日	県災害時通信訓練・院内通信訓練	当院	総務課、調度課
5月11日	県災害時通信訓練・院内通信訓練	当院	医療安全推進課、施設課、医療連携課
6月13日	県災害時通信訓練・院内通信訓練	当院	健診課、入院業務課、人事課
6月15日	赤十字救護班主事研修会 BASIC(救護班主事コース)	日赤神奈川県支部	臨床工学技士4名、臨床検査技師1名、臨床放射線技師1名、薬剤師1名、作業療法士1名、言語聴覚士1名、事務系職員3名
6月28日	レベルⅡ災害救護コース研修会	当院	看護師54名
7月11日	救急車・トラック等運転技術研修会	伊勢原自動車学校	臨床工学技士1名、薬剤師1名、事務系職員4名
7月11日	災害派遣医療チーム(DMAT)隊員養成研修会	国立病院機構(立川市)	看護師1名

8月6日	政府大規模地震時医療活動訓練	愛知県(コントローラー)静岡県(プレイヤー)	医師3名、看護師2名、事務系職員2名
8月12日	県災害時通信訓練・院内通信訓練	当院	総務課、調度課、救急災害業務課
8月21日	九都県市合同防災訓練(横浜会場)	横浜立中村小学校	救護班1班
8月26日	レベルⅡ災害救護コース研修会	当院	看護師53名
9月11日	ビックレスキューかながわ(神奈川県・横須賀市総合訓練)	武山駐屯地	救護班1班
9月12日	県災害時通信訓練・院内通信訓練	当院	医療安全推進課、施設課、医療情報課
9月26日	日本赤十字社神奈川県支部救護班要員教育訓練Ⅰ	日赤神奈川県支部	医師2名、看護師3名、薬剤師1名、臨床工学技士1名、事務系職員1名
9月29日	神奈川国民保護研修会	日産スタジアム	医師1名、事務系職員1名
10月3日	レベルⅡ災害救護コース研修会	当院	看護師52名
10月5日 ～6日	日本赤十字社神奈川県支部救護班要員教育訓練Ⅰ	いこいの村あしがら	医師2名、看護師3名、薬剤師1名、臨床工学技士1名、事務系職員1名
10月11日	県災害時通信訓練・院内通信訓練	当院	健診課、入院業務課、人事課、会計課
11月1日	神奈川県津波対策訓練・情報受伝達訓練・病院防潮堤・医療ガス設備津波対応にかかる操作訓練	当院	看護師長・事務系職員 30名
11月16日	院内総合防災訓練 事前研修会(運搬法)	当院	看護師5名、事務系職員15名
11月25日 ・28日	神奈川県・医療機関の災害時医療情報伝達訓練	当院	25日:総務課・健診課・医療連携課・医療安全課 各1名、人事課4名、会計課3名 28日:会計課・施設課・医療連携課 各1名、総務課3名、人事課2名、外来業務課2名
11月26日 ・27日	関東ブロック訓練(DMAT)	埼玉県	コントローラー1名、DMAT1隊(医師2名、看護師2名、ロジ1名)
11月29日	総合防災訓練 事前研修会(運搬法)	当院	看護師11名、作業療法士1名、臨床検査技師1名、事務系職員10名

12月10日	総合防災訓練	当院	医師18名、看護師56名、薬剤師1名、栄養士1名、調理師1名、作業療法士1名、放射線科技師2名、臨床検査技師2名、事務系職員26名
12月12日	県災害時通信訓練・院内通信訓練	当院	総務課、調度課、救急災害業務課、会計課、医療情報課、外来業務課
12月15日	救護看護師養成研修会Ⅰ	日赤神奈川県支部	看護師9名
1月12日	救護看護師養成研修会Ⅱ	日赤神奈川県支部	看護師9名
1月21日	大型旅客船事案対応訓練	横浜海上保安本部	救護班1班(医師3名、看護師3名、主事4名) 講評者: 医師1名
2月7日	赤十字救護員対象こころのケア研修会	日赤神奈川県支部	看護師13名、臨床工学技士1名、臨床検査技師1名、PSW1名、事務系職員2名
2月9日	国民保護共同訓練	日産スタジアム	医師2名、看護師1名
2月13日	県災害時通信訓練・院内通信訓練	当院	健診課、入院業務課、人事課、医療安全推進課、施設課、医療情報課、救急災害業務課、会計課
2月17日	赤十字救護班主事研修会 ADVANCE コース	日赤神奈川県支部	薬剤師1名、臨床工学技士3名、事務系職員2名
3月4日 ・5日	第2回神奈川 DMAT-L 隊員養成研修会	神奈川県総合防災センター	医師2名、看護師1名、事務系職員2名
3月9日 ・10日	DMAT 技能維研修会	内閣府災害対策本部 予備施設(立川)	看護師1名、事務系職員1名
3月13日	県災害時通信訓練・院内通信訓練	当院	会計課、医療情報課、外来業務課

(4) 救護体制及び主要資機材

常備救護班7班、神奈川 DMAT1 チーム、日本DMAT 隊員8名(医師3名(うち統括1名)、看護師3名、業務調整員2名)、神奈川 DMAT-L2 チーム、神奈川 DMAT-L 隊員16名(医師5名、看護師6名、業務調整員5名)、YMAT1 チーム、救急車2台、医師派遣用緊急車両1台、救護班用医療セット1式、DMAT 標準医療資機材1式、YMAT 資機材1式、日赤業務無線機等22台、衛星電話1台(庁舎設置)、衛星携帯電話2台、(可搬型1台、救急車積載1台)、デジタル個人線量計28台、簡易ベッド540台、NBC 災害除染セット1式、ドラッシュテント1式、エアータント1式、イージーアップテント2式、発動発電機7台、災害用トイレ2基、下水直結型災害等トイレ5基、ライフジャケット10着、患者用非常食3日分、職員用非常食3日分。

2 成果

- ・ 救急・災害医療への対応を強化するため、平成28年6月に救急災害業務課を新設し、これまで総務課社会係と入院業務課救急係が担当していた救急と災害に関する業務を一元化した。
- ・ 横浜市の事業により、病院敷地内に災害用ハマッコトイレ（災害時下水直結式仮設トイレ）を5基設置した。
- ・ 患者用非常食の備蓄量（550人×3日分）とメニューの見直しを行った。
- ・ 災害マニュアル及びアクションカードの改訂を行った。
- ・ 災害時の事業継続計画（BCP）を作成した。
- ・ 救護班、DMAT等に登録された救護業務に従事する職員を対象に、破傷風予防接種を実施し、希望者66名に予防接種を実施した。
- ・ 当院ではこれまで災害時の燃料確保対策として、民間燃料供給会社と協定を締結していたが、これに加え、「医療機関等に対する燃料の安定供給の協力に関する横浜市と神奈川県石油業協同組合との協定」にも参画し、災害時にはより確実に燃料を確保できる体制とした。
- ・ 当院のヘリポートは24時間365日の運用としており、横浜市消防局のヘリで日没間際に救助された傷病者について、ヘリによる当院への直接搬送の運用を開始した。

3 課題

横浜市の災害時透析医療連絡部会や中区災害医療連絡会議などを通じ、地域の医療機関等と、平時から顔の見える関係を構築し、災害時には災害拠点病院としての機能を発揮して地域の災害医療の貢献できるよう、地域との連携をより深めていきたい。

2-10 市民の健康危機への対応

1 データ

横浜市新型インフルエンザ等対策医療関係者連絡協議会

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
開催日	第 10 回 9 月 11 日 第 11 回 11 月 25 日 第 12 回 3 月 24 日	第 13 回 9 月 8 日 第 14 回 3 月 22 日	第 15 回 3 月 21 日

2 成果

- ・横浜市新型インフルエンザ等対策医療関係者連絡協議会に出席。
- ・新型インフルエンザ等発生時における帰国者・接触者外来の開設に関し、他病院の訓練を情報共有。
- ・横浜市の抗インフルエンザ薬の備蓄計画の見直しに伴い、院内での抗インフルエンザ薬使用状況を考慮し、薬剤ごとの備蓄割合（薬局備蓄含む）を再検討した。

3 課題

横浜市新型インフルエンザ等対策医療関係者連絡協議会等と連携して、資器材・抗インフルエンザ薬の整備・備蓄を進めるとともに、帰国者接触者外来開設の準備を進める。

3 指定管理者独自の取組み

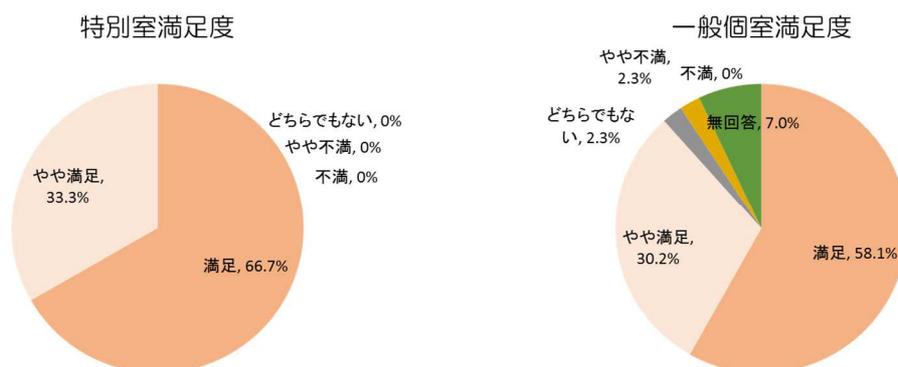
3-1 カスタマーリレーションセンター

1 データ・成果

入院生活は、患者様にとって非日常的で制限の多い生活となる。一方で、病院における住環境は、一般の宿泊施設とくらべ、十分でない。当院では、入院患者様に、より快適な入院環境を整備する目的で、カスタマーリレーションセンターを設立した。

8階の個室利用を利用される方々に、入院から退院まで様々なお手伝いをするコンシェルジュサービス、Free Wi-Fi、TEA set の提供や選択食などのサービスなどを提供し、よりよい環境づくりを目指した。

当院におけるコンシェルジュサービスと、医療との融合をめざし、サービスの定着を図った。一年経過時の、満足度は下記に示す通り特別室、一般個室ともに良好な結果であった。患者様の快適な入院生活に貢献しているものと考えられる。(データ 2016/9~12)



個室環境の改善による個室利用収益は、カスタマーリレーションセンター発足前の2015年に比べ、2016年度で35,798,214円(18%)増加した。

2 課題

今後も継続的に入院環境の改善を行い、すこしでも患者様が安心して入院生活を送れるようサポートする。同時に、利用促進による病院経営の安定化に貢献をしていく。

3-2 ハートセンター

1 概要

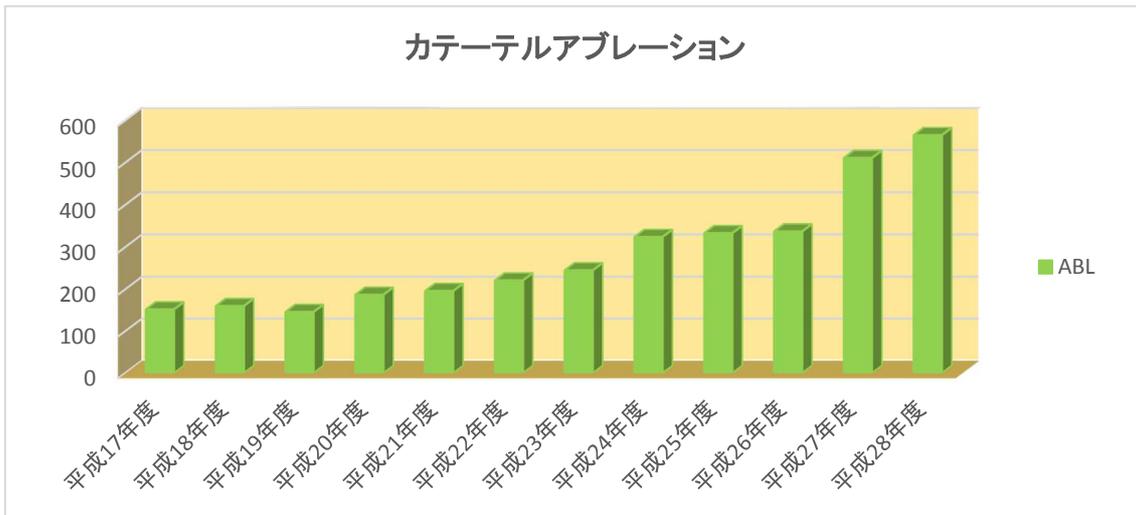
ハートセンターは、循環器内科と心臓血管外科の2診療科で構成され、患者の疾患、病状に応じた最適な循環器診療を提供することを基本方針としている。循環器内科・心臓血管外科・コメディカルの垣根を取り払い、ハートチームで循環器治療に精通した医師・看護師・臨床検査技師・臨床工学師らの連携を密にとり、柔軟かつ的確な治療方針決定が可能となり、医療の効率化と安全性向上が実現する。

夜間も常時院内に循環器担当医が待機しており、虚血症心疾患(狭心症、心筋梗塞)、心臓弁膜症や諸々の心筋疾患、そして心不全、不整脈ならびに大動脈や末梢動静脈疾患と、循環器疾患の診断・治療全般を扱っている。循環器系救急疾患では、ICU・CCU・血管撮影室(心臓カテーテル室)にて緊急インターベンションを含め心臓血管外科との共同で365日24時間万全の体制で対応している。

2 実績・成果

循環器内科

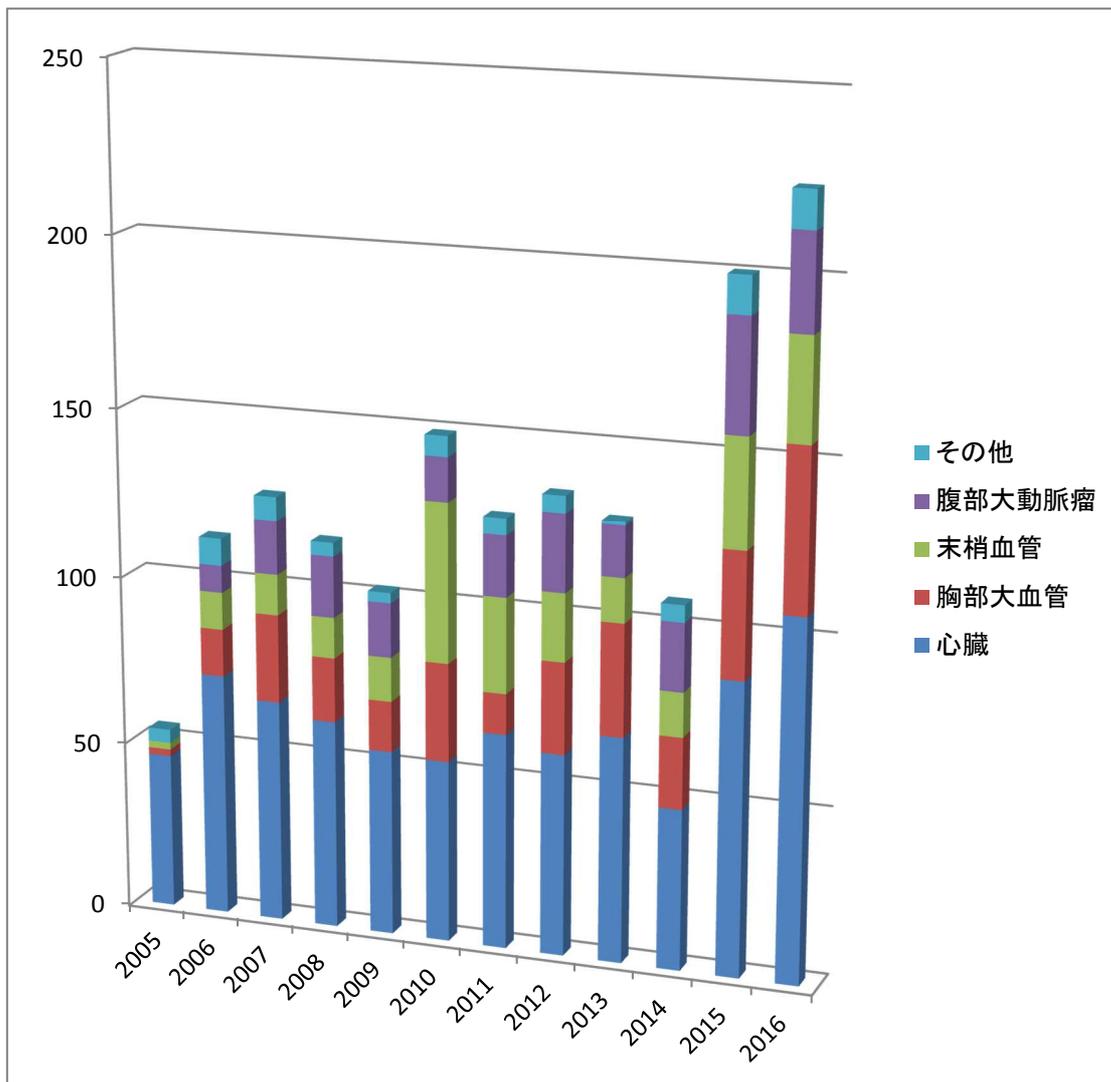
	2014年度 平成26年度	2015年度 平成27年度	2016年 平成28年度
入院患者数	1,686	1633	1,780
心臓カテーテル検査	616	619	607
経皮的冠動脈形成術	301	268	293
カテーテルアブレーション	337	511	565
ペースメーカー植え込み	124	137	89
ICD 植え込み			
心臓再同期療法(CRT)	32	35	30



心臓病の大きな柱である、狭心症や心筋梗塞症などの「虚血性心疾患」と、「不整脈」とをバランスよく診療できる施設は県内は勿論、全国的にも数少ない。特に不整脈の根治療法である「カテーテルアブレーション」は、本邦において第一例目を成功した後、全国から多くの患者さんがこの治療を受けに訪れ、特に他施設において不成功に終わった例などの難渋例を多く手掛け、成功させるという実績を重ねてきた。

心臓血管外科

		2014 年度 平成 26 年度	2015 年度 平成 27 年度	2016 年度 平成 28 年度
入院患者数		104	175	181
総手術件数		107	200	226
心臓手術件数		69	124	157
内訳 (延べ数)	冠動脈バイパス	15	40	40
	弁膜症	33	38	57
	胸部大動脈(ステント)	21(8)	37(11)	49(16)
	腹部大動脈(ステント)	20(15)	33(19)	28(19)
	末梢血管・その他	18	35	42



緊急手術・急患を断らない医療の充実をはかり、急性期病院としての役割を果たしている。さらに29年度から横浜市全域を対象として、心臓血管外科への直通電話ホットラインを造設し、24時間365日迅速に対応できる体制を構築していく方針である。

チーム医療を推進し、ハートセンターの本格始動や他科との密接な連携を行うことで安全で質の高い医療の提供している。また心臓血管外科のない急性期病院との連携、近隣の医院・クリニックとの連携し基幹病院としての役割を果たしている。

3 課題

今後は、高齢化に伴い心臓・大血管疾患の患者の増加が見込まれ、高齢でリスクの高い患者に対して、単に難しい病気を治すというだけでなく、身体負担をできるだけ軽減し、そのうえでさらに効果的な治療を行うという低侵襲医療を目指す時代となっている。

ハートセンターにおける心臓血管低侵襲センターの設立を行う必要があり、その活動の場となるハイブリッド手術室の建設が29年度からはじまり運用が開始される。ハイブリッド手術室の完成により、循環器内科を中心としたカテーテルアブレーション等の血管内治療の増加、年々増加する弁膜症疾患に対して、将来的に経カテーテル的大動脈弁植え込み術(TAVI)の実施施設の認定を得て治療することが可能となる。

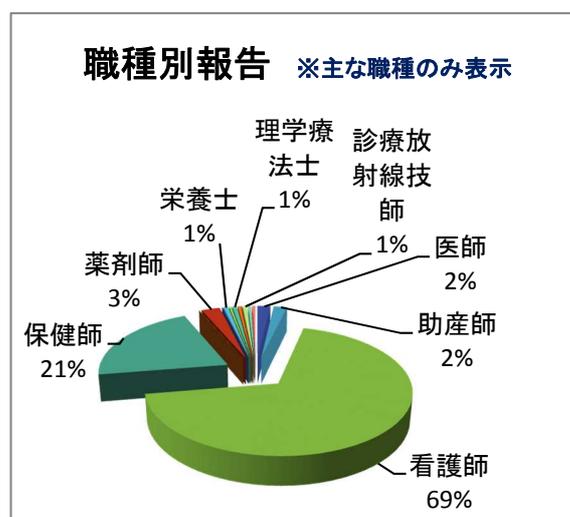
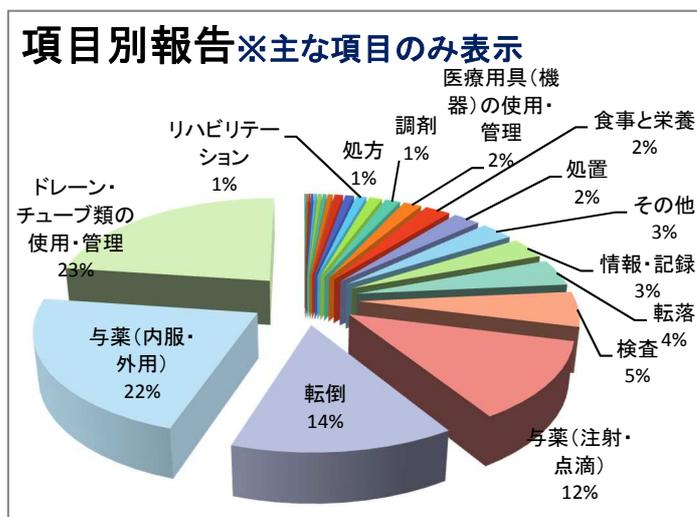
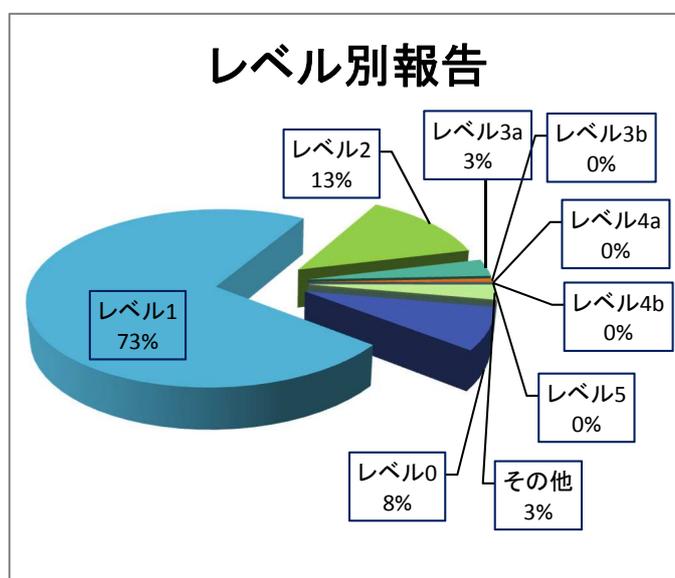
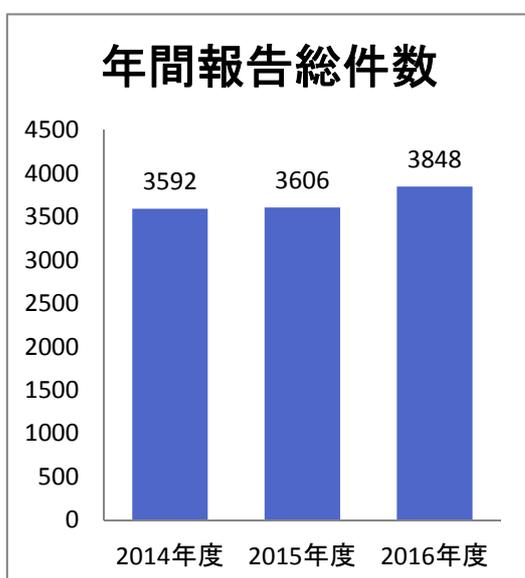
ハイブリッド手術室を利用し、高度な血管内治療の実施も容易となり、ハートセンターによる低侵襲治療である TAVI、大動脈ステント内挿術、ペースメーカー植え込み、ICD 植え込み、カテーテルアブレーション、カテーテル治療、開心術が可能となる。

4 地域医療の質の向上に 向けた取組み

4-1 医療における安全管理(安全)

1 データ

- ・平成28年度インシデントレポート報告件数は、3848件。
- ・平成28年度全職員対象安全研修会は、第1回は6月、第2回は職種別に12月と1月に開催した。参加率は、それぞれ85%と83%。
- ・医療職対象医薬品医療機器安全講演会を2月に開催した。出席者は、255人。
- ・院内救急サポートチーム(MEST)と共催し、2月にコードブルーメディカルラリーを開催した。
- ・RM対象の安全研修会を全8回開催した。また、RM医師対象の安全研修会を開催した。
- ・医療安全管理委員会とRM委員会は、毎月開催した。
- ・RM委員会の中で、医療機器安全管理者によるミニレクチャーを適宜開催した。



・内視鏡検査・治療について

(1) 28年度の重症症例についての報告件数は、2件であった（H28年10月1件、12月1件）。また重症症例については、内視鏡運営委員会において毎月定期的に報告、検討している。

(2) 平成28年度研修実績（開催・参加状況）

①6月3日

内視鏡室患者急変時対応トレーニング

参加人数 医師12名 看護師4名

②12月26日開催

症例検討会

参加人数 医師10名 看護師5名

③2月17日開催

症例検討会

参加人数 医師8名 看護師3名

2 成果

- (1) 報告件数が伸びている。
- (2) 職員への教育計画を予定通り実施した。
- (3) 安全管理マニュアルを平成28年9月に改訂した。
- (4) レベル3b以上の事例報告率が減少した。
- (5) WHO手術安全チェックリストの導入
- (6) 安全推進室週間ミーティングを継続的に実施した。
- (7) 平成28年8月1日（月）市立3病院医療安全報告会において、安全管理の委員会の活動状況、安全管理研修等の開催状況、インシデント報告の状況等を報告し、共有した。
- (8) 薬剤エラー防止対策として、インスリンの持続投与指示をルール化した。

●内視鏡実施件数 ※健診を除く

内視鏡実施件数	27年度	28年度
上部消化管内視鏡	3,615	3,587
下部消化管内視鏡	2,295	2,171
気管支鏡	277	250
ERCP	358	350
合計	6,545	6,358

3 課題

- ・報告件数は年々上昇しているが、報告に関する認識に差があるため、具体的な報告事例を示しつつ報告を促進する。
- ・報告の上位を占めるチューブ抜去、薬剤エラー、転倒・転落について、具体的な対応策を発信していく。
- ・既存のルールの周知と順守、必要に応じた改訂を行う
- ・電子カルテのリプレイスにより、不慣れな状況がエラー発生につながるように委員会を通じて働きかける。

4-2 医療における安全管理（感染）

1 データ

- (1) 平成 28 年度研修会実績
 - ・第 1 回全職員対象感染講演会は、5 月と 9 月に開催した。参加率はそれぞれ 89%と 85%。
 - ・医療職対象感染講演会「感染症診療の実際」を 4 月に開催した。出席者は、130 人。
 - ・みなとセミナー感染講演会「感染症診療のロジック」を 1 月に開催した。院外出席者も含め、出席者は 67 人。

2 成果

- (1) 感染対策マニュアルを平成 29 年 3 月に改訂した。
- (2) 研修会を参加のため複数回開催や時間帯を変えて開催を行い、出席率が約 87%に上昇した。
- (3) ICT による定期的な院内ラウンドを実施し、問題点を現場へフィードバックした。
- (4) サーベイランスによるアウトブレイクの特定
 - ・BSI サーベイランス、SSI サーベイランス継続。JANIS サーベイランス：検査部門・全入院患者部門継続。MRSA 検出患者サーベイランス継続。特定病棟での MRSA 検出数増加に対してはラウンド等行い接触感染防止策の再確認を行った。サーベイランスではアウトブレイクは特定されなかった。
- (5) 抗生物質の適正使用：特定抗生物質使用届け後のフォロー
年度の特定抗菌薬の届出率は 51%であった。また、1 週間以上の長期使用患者に対しては主治医と部長に適正使用を促した。起炎菌や感染症名から、適切な使用と考えられる場合には ICD から主治医に適正使用を促した。
- (6) 感染事例への具体的な対応・指示、関連機関との連携を図った。
- (7) 感染防止対策加算 1 に則り他施設とのカンファレンスを 4 回開催した。
感染対策地域連携加算に則り他施設と相互ラウンドを実施した。他病院の感染防止対策活動の一端を知る良い機会となった。

3 課題

- (1) 標準予防策・感染経路別予防策の徹底
- (2) サーベイランスによるアウトブレイクの特定：BSI、SSI、JANIS、MRSA
- (3) 抗菌薬の適正使用：特定抗菌薬届出の推進
- (4) 針刺し防止：安全機能付き器具の適正使用推進
- (5) リンクナースの活動支援
- (6) 地域連携への取り組み
- (7) 流行性ウイルス疾患抗体価検査の推奨

4-3 医療倫理に基づく医療の提供

1 データ

平成26年度・平成27年度 医療倫理委員会実績

	平成26年度	平成27年度
承認件数	56件	65件
開催回数 開催日等 (参加人数)	第1回 5月27日 (12人) 第2回 7月7日 (11人) 第3回 9月5日 (10人) 第4回 11月7日 (11人) 第5回 1月9日 (10人) 第6回 3月12日 (10人)	第1回 5月27日 (13人) 第2回 7月22日 (16人) 第3回 9月14日 (8人) 第4回 11月13日 (11人) 第5回 1月15日 (6人) 第6回 3月11日 (11人)

平成28年度医療倫理委員会実績 承認件数69件

開催日 (参加人数)	議題	結果
4月14日(臨時) (10人)	(1) Lambert-Eaton 症候群患者における、3,4-ジアミノピリジン投与	承認
開催日 (参加人数)	議題	結果
5月20日 (9人)	(2) 重症患者における急性腎傷害に関する前向き観察研究	承認
	(3) 関節リウマチに対するアバタセプトの効果の検討	承認
	(4) 高齢者切除不能進行再発結腸直腸癌に対する XELOX+ベバシズマブ併用療法におけるオキサリプラチンの至適休止時期の検討	承認
	(5) 肺癌における PET による治療効果判定の有用性の検討	承認
	(6) 日本における成人喘息患者を対象とした調査研究:喘息のコントロール、QOL 及び患者の心理実態	承認
	(7) 10年間でのアナフィラキシー救急受診患者の検討	承認
	(8) StageIII大腸癌治癒切除例に対する術後 SOX 療法の投与量および治療スケジュール最適化のための探索的ランダム化比較第II相試験→実施計画書の一部変更	承認
	(9) ホスピス緩和ケアにおける口腔ケアの有効な実践 ~地域医療における口腔ケアの向上~→実施計画書の一部変更	承認
	(10) 前立腺癌に対する2次ホルモン療法としての GnRH アゴニストからデガレリクスへの切替療法の有効性についての検討→実施計画書の一部、同意説明文書の変更	承認
	(11) 喘息の診断における好酸球由来タンパク質測定 of 臨床的有用性評価→実施計画書の一部変更、同意説明文書の変更	承認
	(12) 経皮的冠動脈形成術後の急性冠症候群患者の精神状態と影響要因に関する前向きコホート研究→実施計画書の一部変更、同	承認

	意説明文書の変更	
	(13) 健常成人におけるモストグラフを用いた呼吸抵抗の予測標準値に関する研究→研究期間の延長	承認
	(14) 気管支喘息の長期管理における個別喘息予報の有用性に関する検討→研究分担者の追加	承認
開催日	議題	結果
7月15日 (9人)	(15) 尿糖排泄閾値が SGLT2 阻害薬の効果に及ぼす影響	承認
	(16) 関節リウマチ患者におけるリンパ増殖性疾患に関する研究	承認
	(17) 気管チューブ抜去から立位までの時間とせん妄発症との関連	承認
	(18) ダニ舌下免疫療法を施行するアレルギー性鼻炎において合併した気管支喘息に対する波及効果の検討	承認
	(19) 甲殻類アレルギーにおけるダニアレルギー合併について～アレルギーコンポーネント特異的 IgE 測定による交差抗原性の評価～	承認
	(20) 症例登録システムを用いた腹腔鏡下肝切除の安全性に関する研究～前向き他施設共同研究～	承認
	(21) 健常成人におけるモストグラフを用いた呼吸抵抗の予測標準値に関する研究→共同研究者の追加	承認
	(22) アナフィラキシー治療症例の多施設集積調査→共同研究者の追加	承認
	(23) 経皮的冠動脈形成術後の急性冠症候群患者の精神状態と影響要因に関する前向きコホート研究→実施計画書の一部、同意説明文書の変更	承認
	(24) ステロイド性骨粗鬆症に対するテリパラチド週 1 回製剤の有用性の検討→実施計画書の一部変更等	承認
(25) 予防医療スタッフによる献血ルームでの啓発活動の効果に関する研究→実施責任者、研究期間の変更	承認	
開催日	議題	結果
9月9日 (9人)	(26) 慢性期慢性骨髄性白血病患者における無治療寛解を目指したダサチニブ治療第 II 相試験 Phase II Trial of Dasatinib Therapy Aiming for Treatment-Free Remission in Patients with Chronic Phase Chronic Myeloid Leukemia <D-FREE>	承認
	(27) 移植適応多発性骨髄腫に対する bortezomib + low dose cyclophosphamide + G-CSF による自家末梢血幹細胞採取の有効性に関する pilot study	承認
	(28) JOIN (人工骨頭置換術 (BHA) における多施設共同成績調	承認

	査) (実施計画書番号 SJCR-OOR-1503)	
	(29) 半閉鎖式システムにおける経腸栄養剤持続投与時の細菌汚染の検証 A study of bacterial contamination in continuous administration of enteral nutrition in a semi-closed system	承認
	(30) 脳梗塞再発高リスク患者を対象とした抗血小板薬併用療法の有効性及び安全性の検討 CSPTS.com(Cilostazol Stroke Prevention Study.Combination)	承認
	(31) 腹部 CT における smaller SMV sign の有用性の調査	承認
	(32) 実臨床における経腸栄養剤持続投与時の細菌汚染の検証	承認
	(33) 大腸癌術後化学療法 XELOX 療法の施行状況と有害事象による中止・休薬、血小板減少の影響の調査	承認
	(34) 関節リウマチに対するアバタセプトの効果の検討→分担医師の変更	承認
開催日	議題	結果
11月30日 (8人)	(35) スギ舌下免疫療法を施行中のスギ花粉症患者において合併したヒノキ花粉症への治療効果の検討	承認
	(36) ダニ舌下免疫療法を施行する通年性アレルギー性鼻炎患者において合併した甲殻類アレルギーに対する波及効果の検討	承認
	(37) 半閉鎖式システムにおける経腸栄養剤持続投与時の細菌汚染の検証 A study of bacterial contamination in continuous administration of enteral nutrition in a semi-closed system	承認
	(38) がん化学療法施行患者の B 型肝炎ウイルス感染状況と再活性化の調査	承認
	(39) 人間ドック健診受診者における胆嚢腺筋症と生活習慣病関連因子および脂肪肝・胆嚢結石との関連	承認
	(40) 腹腔鏡下胆嚢摘出術による胆道損傷の後ろ向き集積研究	承認
	(41) 胃癌術前化学療法(bi-weekly docetaxel/cisplatin/TS1 療法)の効果および有害事象と周術期合併症の関連性	承認
	(42) 乳がん患者におけるインターネットを介しての乳がん情報収集行動の調査	承認
	(43) 浸潤癌病変を伴う乳管内癌の病理学的研究～浸潤癌病変を伴わない純粋型乳管内癌との異同に関する検討	承認
	(44) (症例報告) 腹腔鏡手術中に生じた固有肝動脈損傷に対して大伏在静脈を使用して血管再建を行った一例	承認
	(45) 糖尿病関連の諸因子と頭部 MRI 所見 (海馬傍回体積、無症候性脳梗塞) の関連性の検討	承認
	(46) 高齢者切除不能進行再発結腸直腸癌に対する XELOX+ベ	承認

	バシズマブ併用療法におけるオキサリプラチンの至適休止時期の検討→研究期間の延長	
	(47) 周術期口腔機能管理が入院患者の誤嚥性肺炎の発症および予後に与える効果についての多施設共同研究→実施計画書の一部、同意説明文書の変更	承認
開催日	議題	結果
1月15日 (文書審議)	(48) 静脈血栓塞栓症に対する DOAC への薬剤師による介入	承認
	(49) 腎機能評価により薬剤師が投与設計に関与したアミカシン高用量投与の例	承認
	(50) カテーテルアブレーション施行時のペンタゾシンによる嘔気嘔吐の発現に関する検討	承認
	(51) 日本の外傷院内死亡率の 10 年間の経時的変化	承認
	(52) ナッツ類による即時型反応で救急受診したアレルギー患児の後方視的検討	承認
	(53) 症状コントロールされた気管支喘息患児における呼吸機能と呼気一酸化窒素濃度の検討	承認
	(54) 入院めまい患者におけるめまいのリハビリテーションと薬剤併用についての後向き有用性調査	承認
	(55) スギ花粉症が気管支喘息患児にあたる影響→研究期間の延長	承認
	(56) StageIII 大腸癌治療切除例に対する術後 SOX 療法の投与量および治療スケジュール最適化のため探索的ランダム化比較第 II 相試験→実施計画書の一部、同意説明文書、同意書、同意撤回書の変更	承認
開催日	議題	結果
3月10日 (8人)	(57) 日本における骨髄増殖性腫瘍の予後に関する大規模多施設前向き観察研究 (多施設前向きコホート研究)	承認
	(58) 日本における骨髄腫関連疾患の予後に関する大規模多施設前向き観察研究 (前向きコホート研究)	承認
	(59) 初発時よりダサチニブが投与され分子遺伝学的完全寛解を 2 年間以上維持した慢性期の成人慢性骨髄性白血病症例に対する薬剤中止試験 (D-STOP216 試験)	承認
	(60) 初発時よりニロチニブが投与され分子遺伝学的完全寛解を 2 年間以上維持した慢性期の成人慢性骨髄性白血病症例に対する薬剤中止試験 (N-STOP216 試験)	承認
	(61) Cryo AF グローバルレジストリ研究	承認
	(62) 重症患者の新規心房細動に関する多施設レジストリの構築	承認
	(63) 集中治療室(ICU)における抗菌薬使用と de-escalation の実	承認

	態調査	
	(64) 日本人工関節登録制度	承認
	(65) 肺炎治療退院後の再入院についての臨床的検討	承認
	(66) DPC データを用いた急性白血病の予後に関する研究	承認
	(67) 集中治療室における病棟薬剤師による薬剤問い合わせ内容の系統的分類の作成と介入内容の評価	承認
	(68) 乳幼児喘息に対するフルチカゾン間欠吸入と連日吸入の増悪抑制効果に関する多施設共同二重盲検ランダム化比較試験→実施期間の延長	承認
	(69) 気管支喘息患児におけるコントロール良好と不良でのMostGraphによる気道可逆性試験の比較検討→実施期間の延長	承認

2 成果

- ・計画どおり2か月に1回開催した。(報告事項のみの場合は文書審議)
- ・下記のとおり、医療倫理委員会と自主臨床研究審査委員会との関係性を整理するとともに、研究を早く始めたいとの要望に対応するため迅速審査開始に向け検討を行った。
 - ①「侵襲性なし」且つ「介入なし」の前向き研究については希望があれば、自主臨床研究審査委員会にて迅速審査にかけることができる。迅速審査で承認された案件は研究開始が認められ、承認番号も付与される。後に開催される医療倫理委員会で不承認となった場合、研究を中止し、承認番号も取り消しとなる。
 - ②その他の前向き研究は自主臨床研究審査委員会での承認後、医療倫理委員会に答申され、承認されれば研究開始・承認番号付与となる。
 - ③後向き研究については自主臨床研究審査委員会で承認された後、医療倫理委員会に報告され、承認されれば研究開始・承認番号付与となる。

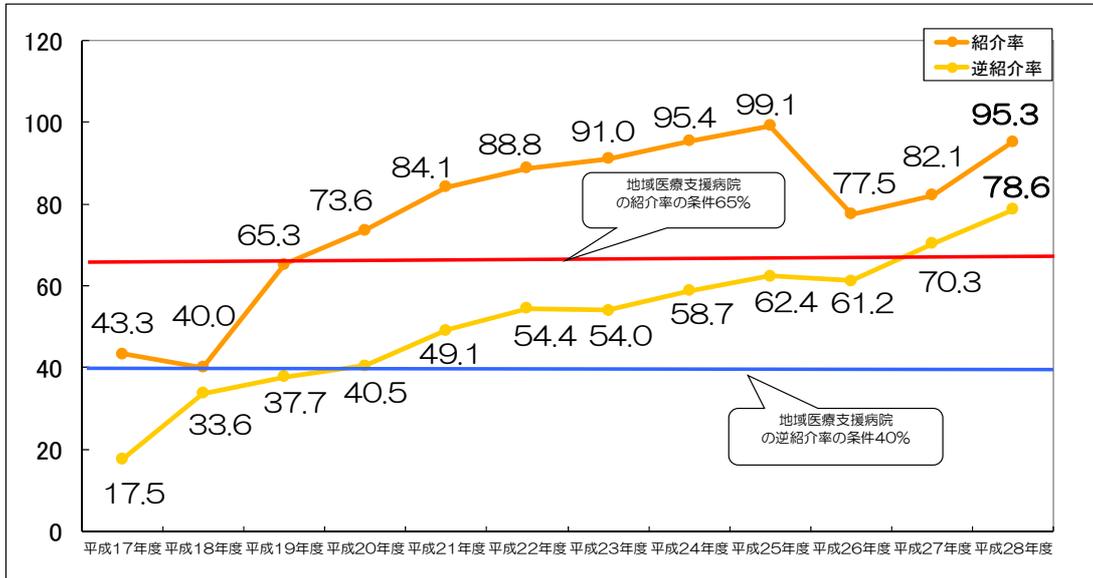
3 課題

- ・「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」にて侵襲（軽微な侵襲を除く。）を伴い、介入を行う研究について、研究責任者に対し、モニタリングや必要に応じた監査の実施を求められているので、今後も引き続き情報収集を行い、実施に向けて議論を深める。
- ・当院における臨床研究フローチャートを作成した。申請書様式を分かりやすく改訂し、申請者向けに記載上の注意事項も作成した。これにより、申請漏れや記載のミスを防ぎ、スムーズな審査・承認をすることで当院の臨床研究の推進、活性化を図る。

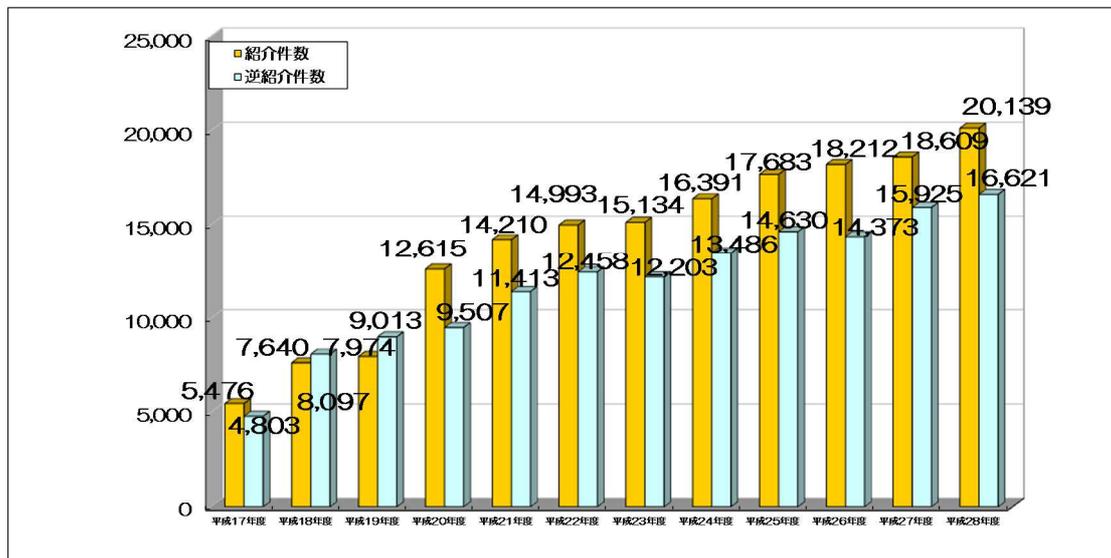
4-4 地域医療機関との連携・支援（医療連携課）

1 データ

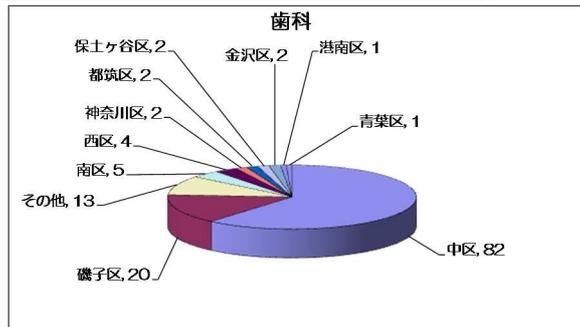
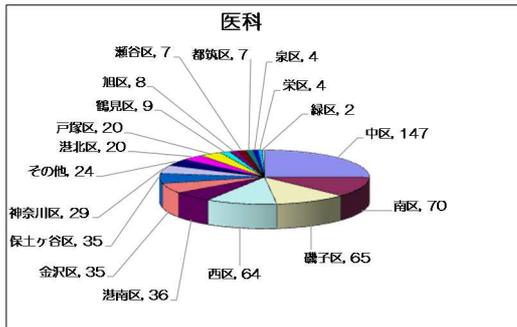
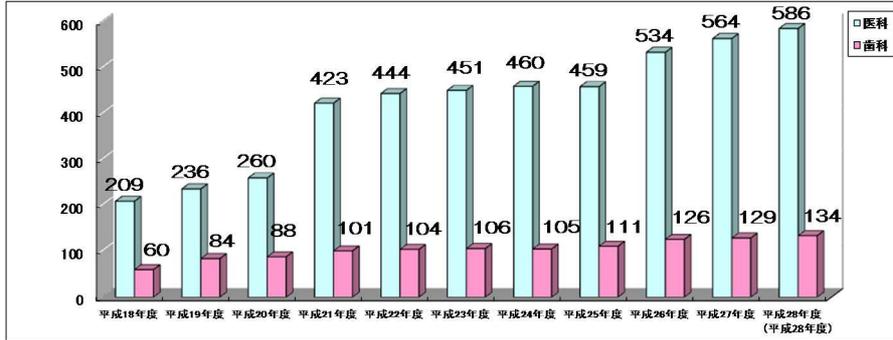
紹介率・逆紹介率推移
(年度推移)

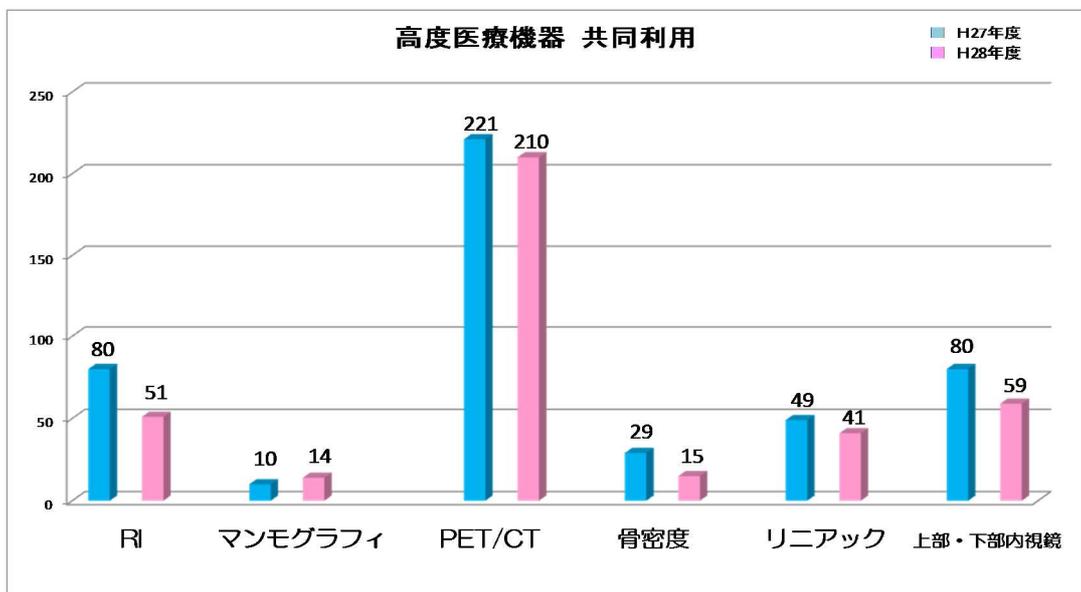
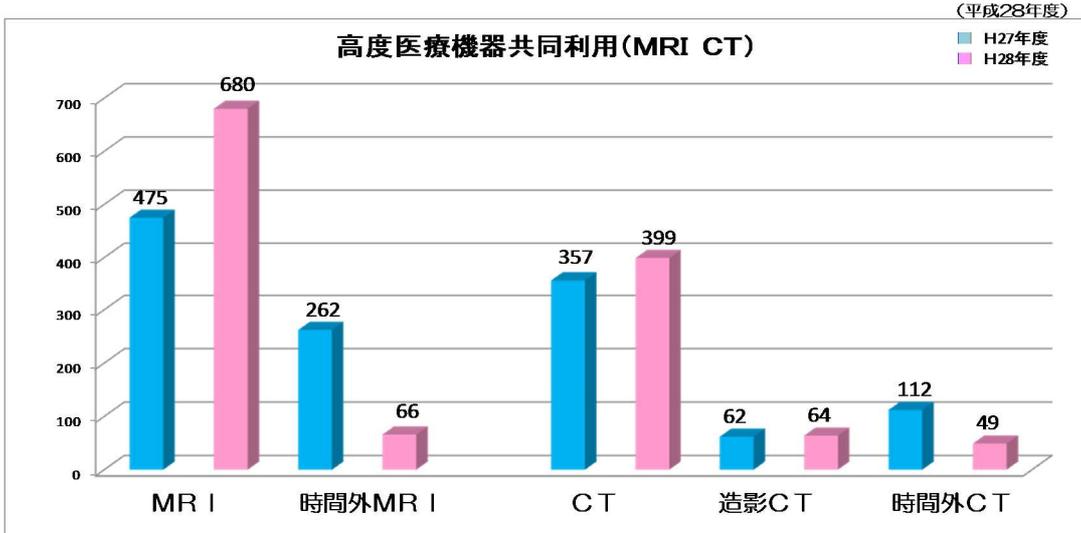


紹介件数・逆紹介件数推移
(年度推移)

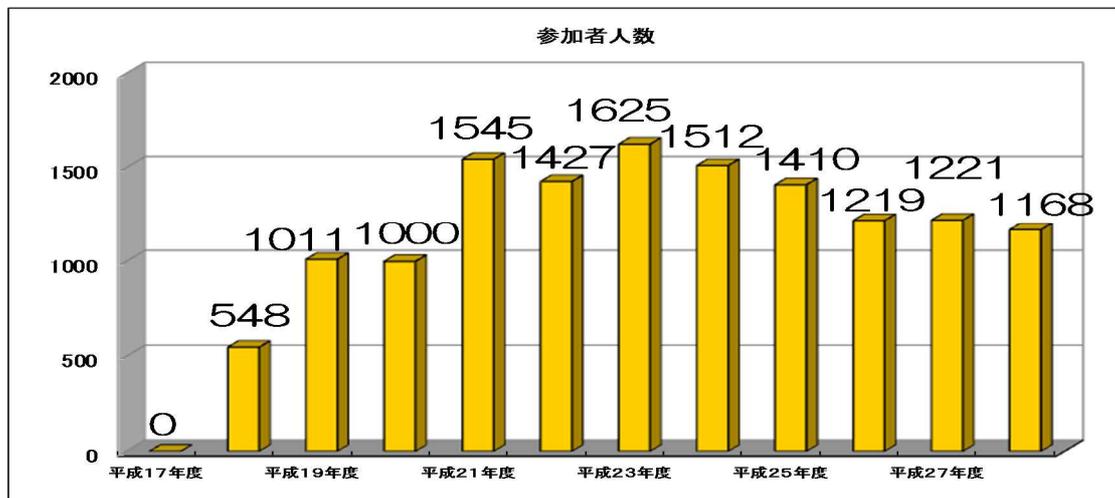
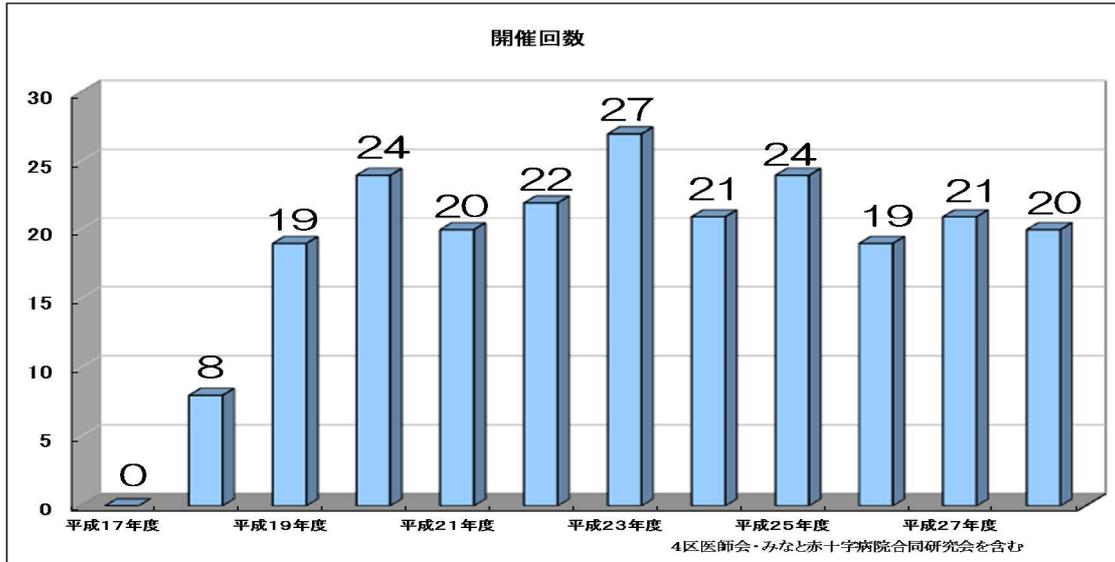


登録医登録状況





地域の医療従事者に対する研修実施状況 (年度推移)



2 成果

医療連携課は、医療連携センターの入口業務を担う部署であり、地域医療機関の窓口として“顔の見える連携”を心がけている。質の高い急性期医療を提供するため、また地域がん診療連携拠点病院、地域周産期母子医療センターに指定され、ますます地域の医療機関との医療機能の分担と連携を強化し、紹介・逆紹介の向上に努めた。

一方、地域医療支援病院として、近隣診療所を支援する他、近隣医師会、登録医等関係医療機関との合同研究会やセミナーを開催し、地域医療の質向上を図った。

3 課題

平成26年に地域医療支援病院の要件見直しがあり、紹介率の算定方法が変更されたが、地域医療支援病院の承認要件である紹介率65%、逆紹介率40%はクリアされた。

また、地域の医療従事者の研修を年20回開催し、述べ1,168名の参加者を募り地域医療の質向上に貢献してきた。

今後も、病院の運営方針である“逆紹介”を積極的に推進する。

4-5 地域医療機関との連携・支援（療養・福祉相談室）

1 データ

<相談室業務>

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
相談件数	6422件	7162件	6615件
がん相談件数	1903件	2370件	2155件

<算定件数>

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
退院支援加算	809件	2242件	3681件
介護支援連携指導料	241件	272件	392件
退院時共同指導料2	36件	99件	134件
3者以上退院時共同指導加算	8件	10件	6件
大腿骨頸部骨折パス	16件	32件	35件
脳卒中パス	57件	69件	74件

<地域連携会議>

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
横浜脳卒中地域連携懇話会セミナー	第1回 2月19日	第1回 2月20日	第1回 2月16日
横浜脳卒中リハ連携研究会	第1回 7月2日 第2回 12月11日	第1回 7月1日 第2回 12月9日 第3回 2月7日	第1回 7月6日 第2回 11月30日
神奈川脳卒中広域シームレス医療研究会セミナー	第1回 7月23日 第2回 12月17日	第1回 7月4日 第2回 12月19日	第1回 1月14日
大腿骨頸部骨折地域連携パス合同委員会	第1回 6月17日 第2回 10月14日 第3回 2月24日	第1回 6月16日 第2回 10月13日 第3回 2月23日	第1回 5月13日 第2回 10月11日 第3回 2月21日

<療養・福祉相談室 主催/共催研修>

5月10日	誤嚥性肺炎の高齢者 ～よりよい療養支援で元気に食べるケアのポイント～	かいごのWa!なか ヘルプ部会
6月17日	退院支援について	かいごのWa!なか ケアマネ部会
7月26日	みなとセミナー 医科歯科連携講演会 海老名市における医科歯科連携による地域力向上への取り組み	横浜市歯科医師会 中区歯科医師会
7月28日	誤嚥性肺炎の高齢者 ～よりよい療養支援で元気に食べるケアのポイント～	港南区 ケアマネ連絡会
9月21日	みなとセミナー ～よりよい在宅療養支援を目指して part10～	
10月24日	めざせ!トラブルのないお尻 ～おむつを正しく使いこなす～	かいごのWa!なか ヘルプ部会
11月15日	誤嚥性肺炎の高齢者 ～よりよい療養支援で元気に食べるケアのポイント～	神奈川区 ケアマネクラブ
11月16日	急変時の対応 ～窒息・痙攣・外傷・吸引・意識消失・骨折など～	かいごのWa!なか 看護部会
2月17日	誤嚥性肺炎の高齢者 ～よりよい療養支援で元気に食べるケアのポイント～	西区包括ケアプラ ザ 主任ケアマネ

2 成果

(1) 療養・福祉相談の実績報告 (資料①)

(2) 地域関係機関との取り組み

- 1) 行政機関や在宅介護関係機関の会合への参加、「かいごのWA!中」の会合への参加、横浜市退院支援看護師の交流会への参加など、在宅療養支援に関する情報の共有を図った。
- 2) 横浜市重症心身障害児者メディカルショートステイシステム実務者会議や障害者自立支援協議会への参加、中区3障害一体サービス提供施設運営委員会など、障害児者に関する活動を実施した。横浜市重症心身障害児者メディカルショートステイシステムでは行政を通して18件の相談があり、14件受け入れを行った。
- 3) 全国赤十字医療ソーシャルワーカー協議会や医療協ソーシャルワーカー会などの委員会に参加した。
- 4) 精神科医療に関する活動として、合併症受入病院連絡会や精神保健業務連絡会、医事担当者会議等の参加し、必要な情報収集、受入病院としての提言をした。また、精神科救急医療/身体合併症システムの円滑な運用に向け、外部研修で四縣市、他医療機関との連携を図った。
- 5) 神奈川脳卒中広域シームレス医療研究会、横浜脳卒中地域連携懇談会、横浜脳卒

中・リハ連携研究会（Y-CIRCLE）に参加し、大腿骨頸部骨折パス合同委員会は当院で開催した。

- 6) 医師会や地域関係機関と「中区で認知症を考える会」の研修を当院で開催した。
- 7) 横浜市リハビリテーション事業団とALS患者支援に関する連携を強化し、MSWが病院と地域を結ぶコーディネートの役割を担った。
- 8) みなとセミナー「よりよい在宅療養支援をめざして part 10」を開催した。
- 9) 横浜市児童虐待防止医療ネットワークに毎年3回参加し、市内小児救急病棟と児童虐待防止に向けた取り組みについて情報交換を行った。

(3) 専門職育成への取り組み

院外からは、14名の看護学生、2名の社会福祉学生の実習、神奈川県看護協会第2支部の研修生を6名、院内は看護部からクリニカルラダー「退院支援コース」の研修者を18名受け入れた。

(4) 専門職としての研鑽

神奈川県看護協会、医療協、神奈川県MSW協会、神奈川県PSW協会やその他自治体主催による各種研修を積極的に受講し、有資格者としての自己研鑽を図った。また、資格の専門性を生かし幅広い活動を通して業務に反映させた。

- 1) がん相談支援センター相談員研修（1）（2）1名（3）1名が受講をし、3名が認定がん専門相談員の資格を有している。
- 2) 災害関連としてDMAT・DPATの要員に必要な研修に参加した。

(5) 院内他部署、あるいは地域関係機関に向けた取り組み

地域に向けては、新たな試みとして地域医療・介護関係機関と共催し、研修を実施した。

- 1) 皮膚・排泄ケア認定看護師によるケアマネ・訪問看護師などを対象にした研修
- 2) 歯科医師、摂食・嚥下障害看護認定看護師、歯科衛生士によるケアマネ・訪問看護師などを対象にした研修
- 3) 集中ケア認定看護師、救急病棟による訪問看護師を対象にした研修

3 課題

- (1) 退院支援マニュアルに沿った退院支援を病院全体で推進し、老いや病気を抱えた患者や家族に対し、包括的な支援を実施していく。また、病院と在宅チームとで退院後の患者の状態を共有する、退院支援を病院と地域で評価する仕組みを地域の関係者と共に作る退院支援体制の構築を目指していく。
- (2) 大腿骨頸部骨折地域連携パス／脳卒中地域連携パスについて運用の見直しを検討し、引き続き院内外の連携を深め、円滑な運用を進める。
- (3) 政策医療の一つでもある精神科救急医療／身体合併症システムの円滑な運用に向

- け、院内外との連携を深める。
- (4) みなとセミナー「よりよい在宅療養支援をめざして part 1 1」を実施する。
 - (5) がん拠点病院に必要とされるがん相談支援センターの体制を強化していく。
 - (6) 横浜市重症心身障害児者メディカルショートステイシステムの院内外との連携を進める。
 - (7) 各区医師会 在宅医療連携室との連携を推進していく。

医療社会事業課 平成28年度報告書

平成28年度分
横浜市立みなと赤十字病院

(1)取扱人数

区分	人数
年度実人数	6615 人
年度延人数	36172 人

区分	実人数	
新規介入ケース	入院	3987 人
	外来、その他	2480 人
終了ケース	6450 人	

精神科入院相談件数	368 件	
がん相談	実件数	2155 件
	延べ件数	5763 件
	(対面)	2465 件
	(電話)	2833 件
	(その他)	465 件

*算定

退院支援加算1(600点)	3681 件
退院支援加算3(1200点)	42 件
介護支援連携指導料(400点)	392 件
退院時共同指導料2(400点)	134 件
保険医共同指導加算3者以上(2000点)	6 件
精神科退院指導料(320点)	86 件

*地域連携パス実施状況

大腿骨頸部骨折パス	35 件
脳卒中パス	74 件

(2)新規ケースの紹介経路

区分	実件数
医療職Ⅰ	979 件
医療職Ⅱ	1 件
医療職Ⅲ	2152 件
一般職Ⅰ	69 件
一般職Ⅱ	0 件
本人	462 件
家族・親戚縁者	594 件
院外関係者	2079 件
近隣者・知人	9 件
ソーシャルワーカー	122 件
合計	6467 件

(3)取扱内容

区分	実件数
家族関係の問題	100 件
介護・療養生活上の問題	2499 件
経済に関する問題	344 件
日常生活上の問題	211 件
就労・職場の問題	17 件
教育の問題	1 件
医療の確保に関する問題	2715 件
人権に関わる問題	67 件
心理・情緒の問題	307 件
制度活用に関する問題	613 件
その他	1463 件
合計	8337 件

(4)援助方法

方法	延件数	
面接	本人	11077 件
	家族等	5727 件
電話	本人	271 件
	家族等	6914 件
訪問	本人	26 件
	家族等	0 件
同行・同伴・代行	8 件	
文書(電子メール、FAX含む)	3128 件	
情報収集	20712 件	
院内協議・院内カンファレンス	27405 件	
院外協議・院外カンファレンス	20200 件	
合同カンファレンス	915 件	
その他	370 件	
合計	96753 件	

(5)相談援助調整内容

内容	延件数
家族関係に関すること	551 件
在宅介護に関すること	9975 件
療養生活に関すること	15083 件
経済的問題に関すること	1572 件
就労・職場環境に関すること	38 件
就学・教育環境に関すること	12 件
虐待・暴力・人権に関すること	301 件
受診・受療に関すること	2020 件
転院に関すること(医療機関)	12374 件
他施設利用に関すること	3075 件
心理・情緒の問題に関すること	677 件
他福祉関係法に関すること	815 件
高額療養費に関すること	219 件
その他	2935 件
合計	49647 件

(6)転帰先

区分	実件数
一般病院	301 件
包括ケア	29 件
回復期リハビリテーション病院	266 件
療養型病院	78 件
精神病院	170 件
介護老人保健施設	88 件
特別養護老人ホーム	45 件
有料老人ホーム	139 件
グループホーム	8 件
緩和	43 件
在宅	1421 件
死亡	117 件

(7)その他

苦情	11 件
----	------

4-6 市民委員会

1 データ

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
開催日 (出席人数)	平成 27 年 3 月 6 日 (6 名)	平成 28 年 2 月 23 日 (9 名)	平成 29 年 2 月 21 日 (9 名)

	委員氏名	役 職
1	行天 良雄	医事評論家
2	荻野 安奈	作家 慶應義塾大学文学部教授
3	三角 隆彦	社会福祉法人恩賜財団済生会横浜市東部病院院長 (※平成 28 年度から委員)
4	向山 秀樹	横浜市中区医師会 会長
5	玉村 和巳	日本発条株式会社 代表取締役社長
6	川本 守彦	川本工業株式会社 代表取締役社長
7	河村 朋子	横浜市磯子区医療センター訪問看護ステーション 管理者
8	平山 正晴	横浜市中区連合町内会長連絡協議会 会長
9	松田 史朗	横浜市立みなと赤十字病院奉仕団 団員

2 成果

平成 29 年 2 月 21 日に開催した平成 28 年度市民委員会では下記項目について当院の取り組みを報告した。

- ・横浜市立みなと赤十字病院の現況
- ・横浜市立みなと赤十字病院 心臓血管外科の取り組み
- ・地域と共に取り組む退院支援の体制の構築

当院の運営に対し有識者から意見をお聞きできる場であり、上記各報告についてだけでなく、その他当院の様々な問題点についてもご指摘をいただいている。

3 課題

昨年度同様、委員の方から多くのご意見をいただいたが、そこから改善に向けた行動がなされないケースがある。担当部署が責任をもち、管理しなければならない。

4-7 治験・受託研究

1 データ

	26年度	27年度	28年度
治験実施件数	26件	34件	33件
自主臨床試験件数	57件	66件	71件
市販後調査件数	70件	64件	60件

2 成果

倫理指針の改正に伴い、自主臨床試験の体制整備を図った。手順書の整備、試験の進捗管理体制の整備および研修体制の整備を実施し、モニタリングおよび監査にも対応した体制となった。研修については、体制整備に伴い、臨床研究に関する初回研修セミナーを2回（ビデオ講習は各3回）開催し、継続研修セミナーを2回開催した。治験においては、新規に治験を実施する診療科を増やすことを目標とし、2つの診療科で新たに治験開始となった。前年度と比較して治験実施件数では同等の件数であり、自主臨床試験では5件の増加であった。

また、28年度新規治験受託件数は8件であり、その内訳は下記のとおりであった。

- ・ 関節リウマチ患者を対象とした非盲検継続投与試験1件
- ・ 成人持続型気管支喘息患者を対象とした試験1件
- ・ 抗凝固作用の中和を行う人道的見地から実施される治験1件
- ・ 子宮内膜症患者を対象とした試験1件
- ・ 腎性貧血患者を対象とした試験2件
- ・ 既存の経口抗凝固薬の投与が困難な非弁膜症性心房細動患者を対象とした試験1件
- ・ コントロール不良の喘息患者を対象とした試験1件

3 課題

次年度は、IRBのペーパーレス化や事務局の管理業務のIT化を推進する。また、自主臨床試験においては、研修を通して研究者への倫理指針の理解を深め、試験の進捗についてもれの無いよう把握する体制を整える。さらに今後施行される臨床研究法への準備を進める。治験においては、実施率向上に向け取り組みを検討する。

4-8 患者・市民に対する相談・啓発活動

1 安全講習会開催実績

(1) 赤十字救急法短期講習会

平成26年度		平成27年度		平成28年度	
日程	人数	日程	人数	日程	人数
7月31日	12人	7月22日	5人	5月13日	12人
		12月2日	15人	10月28日	20人
		1月22日	3人	11月16日	16人
				11月17日	21人
				11月29日	21人
				12月21日	30人
				1月17日	10人
				2月8日	23人
1回	12人	1回	23人	8回	153人

(2) 赤十字救急法基礎講習・救急員養成講習会

平成26年度		平成27年度		平成28年度	
日程	人数	日程	人数	日程	人数
3月28日～ 30日	59人	3月28日～ 30日	51人	3月28日～ 30日	35人

(3) 赤十字健康生活支援講習会（短期講習会）

平成26年度		平成27年度		平成28年度	
日程	人数	日程	人数	日程	人数
8月5日	14人	8月6日	10人	8月2日	9人
10月10日	21人	10月1日	15人	10月6日	13人
10月15日	40人	1月22日	4人	10月20日	43人
2月20日	22人	2月19日	4人	11月16日	13人
				2月17日	1人
				3月2日	20人
4回	97人	3回	33人	6回	99人

(4) 水上安全法講習会（着衣泳の短期講習会へ指導員職員を派遣）

平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度	
開催日	参加者	開催日	参加者	開催日	参加者
7月19日	60人	7月15日	169人	7月15日	70人
7月20日	60人				
2回	120人	1回	169人	1回	70人

2 成果

平成28年度は、患者さんや来院者が院内のどこで倒れても、最初に発見した職員が対応できることを目指して、事務系職員、委託会社社員、横浜みなと赤十字病院奉仕団員を対象に、救急法短期講習（一時救命処置）を実施した。

赤十字健康生活支援講習会では、初めて認知症についての講習会を実施した。

3 課題

平成28年度は、事務系職員等を対象に、一時救命処置の講習会を実施した。患者さんや来院者がより安全に院内で過ごせるよう、平成29年度も引き続き、一時救命処置の講習会を継続していきたい。

4-9 患者サービス

1 データ

<患者満足度調査結果>

・平成26年度

【この病院に対する全体的な評価】

入院（有効回答数 504件）



外来（有効回答数 614件）



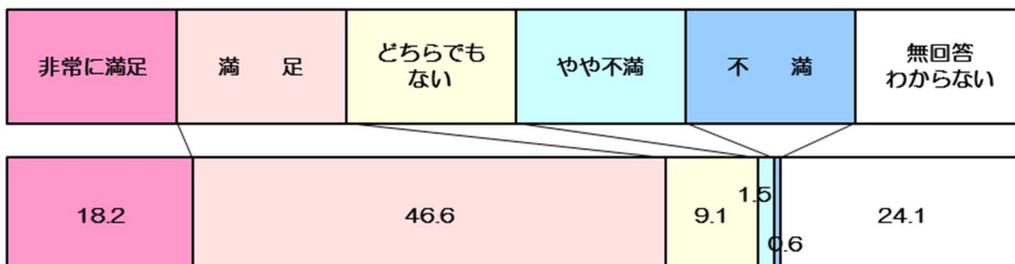
・平成27年度

【この病院に対する全体的な評価】

入院（有効回答数 515件）



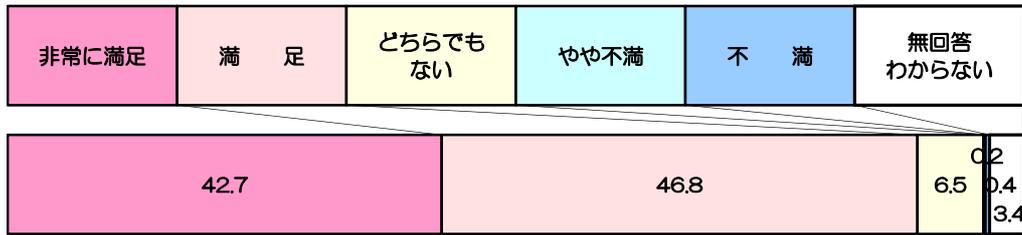
外来（有効回答数 685件）



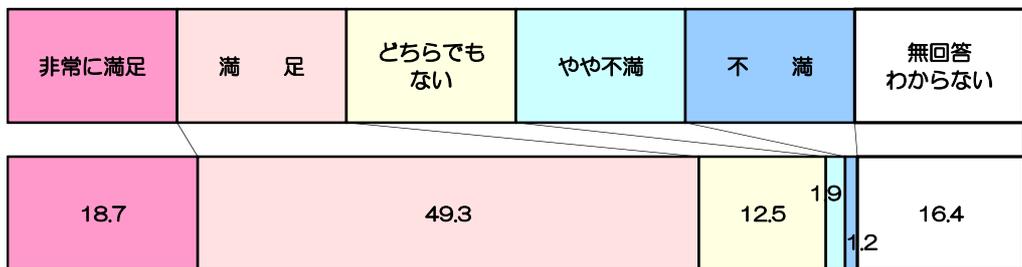
・平成28年度

【この病院に対する全体的な評価】

入院（有効回答数 494件）



外来（有効回答数 641件）



<病院ボランティア活動>

- ・平成28年度 病院奉仕団実施行事
 - 6月 2日（水）ANAすずらんイベント
 - 6月11日（土）緩和ケア病棟「紫陽花の会」
 - 7月 2日（土）災害救護倉庫整備
 - 8月25日（水）小児科病棟「夏祭り」
 - 9月17日（土）緩和ケア病棟「秋の音楽会」
 - 11月27日（土）「コンサート」
 - 12月10日（土）緩和ケア病棟「クリスマス会」
 - 12月22日（木）小児科病棟「クリスマス会」
 - 12月22日（木）「クリスマスコンサート」
 - 2月17日（金）病院ボランティア養成講座
 - 3月 3日（金）小児科病棟「ひなまつり会」
 - ・その他の活動
 - ・ガーデニング：第2・4水曜日
- <作業部会>
- ・パッチワーク：第1・3金曜日
 - ・車いす清掃：第1・3金曜日
 - ・緩和ケアセンター内での活動：毎週金曜日
 - ・緩和ケアセンター「がんサロン」のサポート
 - ・病院が実施する災害訓練への協力
 - ・アレルギーセンター主催「市民セミナー」への協力

2 成果

サービス向上委員会については、毎年「患者満足度調査」「みなさまの声・ご提案」によって集積される患者さんのご意見を分析し、患者サービス向上への取り組みを行っている。今年度実施した患者満足度調査においても好評をいただいている。

28年度は、総合受付表示サインを変更し、視覚的に確認しやすくなった。27年度にオープンしたコーヒーショップの利用も多く、患者からのご要望によりその周辺に小机を設置し、飲食の場としての利便性が高まった。

会計待ち時間については、計算作業の工夫などの取り組みにより平成29年2月には10分未満に収まっている。

外国籍の患者が増えてきている現状において、医療行為に係る通訳は、今年度もMICかながわと契約を締結し医療通訳者の派遣を依頼し対応した。医療行為以外の内容については、外国語で患者対応ができる職員に委嘱状を交付し、通訳を実施した。また今年度より通訳専用のタブレット端末を購入し運用を開始した。

カスタマーリレーションセンターでは、8階特別室のアメニティーの充実に努めるとともに、紹介用DVDを作成した。

ボランティア活動は、みなと赤十字病院奉仕団の病院ボランティアの方々に協力いただき、イベント支援や車いす清掃、敷地内のガーデニング、外来患者さんの案内を実施している。

3 課題

院内改修が進んでおりハード面の改善はされてきてはいるものの、まだ総合案内にて場所の質問が繰り返されているものもあり、さらなる表示サインや備品の追加を検討する。

職員の接遇をより向上させるのはもちろんのこと、患者の思いに寄り添った対応ができるよう院内研修を企画し実施していく。

呼び出し表示盤等を通じタイムリーな情報提供を行っていく。

4-10 医療データベースの構築と情報提供

1 成果

- 電子カルテシステムの検討とメンテナンスの実施
年 2 回のレベルアップを実施し、電子カルテシステムの機能の充実を図った。平成 29 年度のリプレイスに向けた院内の検討を開始した。
- 診療 DWH や医事 DWH を活用し、統計データの作成を実施した。また、看護管理データについてはベンダーとともにシステム開発、検証を実施しデータ抽出しやすい環境を整えた。
- 情報提供、データ分析においては、前年度に引き続き外部講師の活用により DPC データの分析等、病院の立ち位置を含む情報提供を定期的実施できた。

2 課題

- データの 2 次利用において、医師の症例登録等、直接の診療業務以外でのデータ利活用については、電子カルテのリプレイスを機に効率的にできるようシステム検討を開始した。
- 医療安全にかかわるプロファイル情報の連携等について強化できるよう、運用とシステム検討が課題である。

5 職員研修

5-1 職員研修（医師）

1 データ

①事業実績

（研修会等名）	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
モーニングセミナー	年間 57 回	年間 58 回	年間 57 回
医学生向け見学会	年間 3 回 (53 名参加)	年間 3 回 (54 名参加)	年間 4 回 (66 名参加)
Morbidity and Mortality Conference	年間 5 回	年間 4 回	年間 4 回
講演会	年間 3 回	年間 2 回	年間 4 回
新規採用者 オリエンテーション	4 月 1 日開催	4 月 1 日開催	4 月 1 日開催
チーム医療 ワークショップ	年 2 回	年 2 回	年 2 回
院内 CVC ライセンス 制度	認定試験 1 回 (3 日間)	認定試験 1 回 指導者試験 2 回	認定試験 4 回 指導者試験 2 回
院内腹腔鏡手術技術認定 試験	年間 6 回	年間 5 回	年間 2 回
指導医養成講習会	年間 1 回	-	年間 1 回
管理者育成研修	年間 2 回	年間 1 回	-

②定員数（採用数）

（研修医）定員数（採用数）

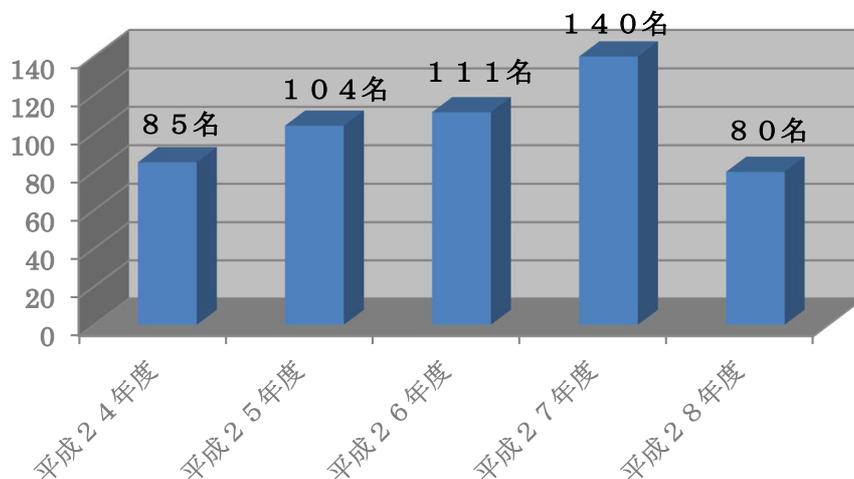
平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
7 (6)	13 (13)	13 (13)	12 (13)

（研修歯科医）定員数（採用数）

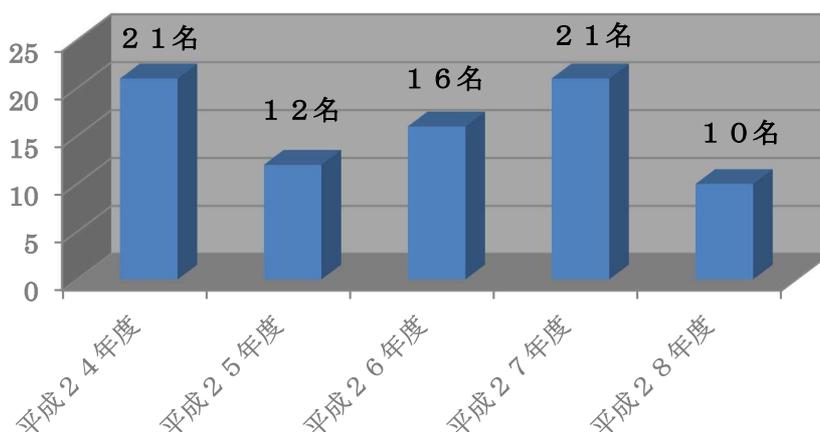
平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
1 (1)	1 (1)	1 (1)	2 (2)

③病院見学者数（のべ人数）

医学生実習・見学者数



歯学生実習・見学者数



2 成果

臨床研修については、平成27年度より研修医数が7名から13名へと増加したことに伴い、平成28年度は新たな合同病院説明会への参加、病院見学会開催回数を増やすなどの対応を行った。また、臨床研修プログラムの変更申請を行い、地域医療研修先として、伊豆赤十字病院を追加した。また、歯科医師臨床研修プログラムの変更を行った。

後期研修・専門研修については、平成29年度より開始された専門医制度に向けプログラム整備や連絡協議会の開催等を行った。

さらに、病院実習に関する書式を作成し、実習を受け入れている部署に対して周知、書類の見直し等を行った。

3 課題

平成 29 年度より開始した専門医制度の環境整備、体制整備やこれから開始される領域のプログラムに関する準備、対応が必要となってくる。

また、スキルラボ室の運用や管理機材の貸出等について見直しが必要である。

5-2 職員研修（看護部）

1 データ

1) ラダー認定者数・院外研修受講者数等

項目	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
実践者ラダーレベルⅠ認定	44 人	44 人	58 人
レベルⅡ認定	38 人	50 人	43 人
レベルⅢ認定	4 人	20 人	14 人
管理者ラダーレベルⅠ認定		2 人	2 人
レベルⅡ認定		1 人	2 人
院外研修(看護協会)	114 人	108 人	92 人
看護管理者ファースト研修	6 人	2 人	6 人
看護管理者セカンド研修	1 人	1 人	2 人
看護管理者サード研修	0 人	1 人	0 人
臨床指導者研修(長期)	4 人	2 人	2 人
(短期)	12 人	9 人	12 人
認定看護師教育課程	0 人	1 人	1 人
学会発表・参加	60 人	66 人	69 人

2) 院内ラダー研修実績

レベル	研修名	回数	受講者数	レベル	研修名	回数	受講者数
実践者 レベルⅠ	フォローアップ	2	60	実践者 レベルⅢ	看護倫理Ⅲ	2	32
	医療と診療情報	1			看護研究	3	8
	フィジカルアセスメント	1			マネジメント入門	3	15
	多重課題	1			フィジカルアセスメント上級	4	15
	災害救護	1			認知症ケア	4	12
実践者 レベルⅡ	フィジカルアセスメント	5	49	実践者 レベルⅢ	口腔ケア	4	16
	実地指導者	5	44		退院支援	5	18
	赤十字と看護倫理	1	42		レベルⅠ	災害救護	3
	看護と診療報酬	1	40	レベルⅡ		1	25
	看護とコミュニケーション	1	34	初級		2	60
	ナラティブ	2	46	中級	1	42	
実践者 レベルⅢ	実地指導者	5	44	管理者 レベルⅠ	教育担当者	6	14
	リーダーシップとメンバーシップ	3	29		新任係長	6	5
					新任師長	5	3

2 成果・課題

1) 看護職員のキャリア開発

看護協会が主催する院外研修へ 92 名を派遣した。認定看護師教育課程への派遣や学会発表・参加へも積極的に進めることができ、看護部としての人材育成に力を注いでいる。看護部では、26 年度に「当院が求める看護師像」を改めて具現化し、キャリア開発に取り組んでいる。当院が求める看護師は、部署において、急性期医療の中で患者の権利を擁護し、医療チームの推進者としてのリーダーシップを有した看護師である。そのためにも、レベルⅢを取得できるようキャリアを支援している。レベルⅢの認定者は、年々増えており、28 年度は 14 名が認定を受けた。院内全体としても 66 名の看護師がレベルⅢを取得している。今後は、増加しているレベルⅢ取得者のキャリア開発につながるレベルⅣの支援が課題である。

2) 看護管理者のキャリア開発

看護管理者ファースト研修には 6 名、セカンド研修には 2 名を派遣した。また、管理者ラダーの取得者は、今年度 4 名が取得し、合計 7 名が取得した。管理者ラダーⅠの「新任係長研修」は、3 年目を迎え、OJT に繋げることができている。28 年度には、「新任師長研修」の研修を開始した。多くの管理者が研修支援に関わることで、新任師長の成長に繋がった。また新任師長へのメンター制度を取り入れ、メンターの存在は新任師長の心の拠り所となった。

今後は管理者自らが、自己のキャリア開発について考えられるよう支援することが課題である。

3) 看護方式の見直し

28 年度は、「固定チーム継続受け持ち制」ができるよう、係長会議や業務ブロック、教育ブロックと協力し、業務改善と教育体制作りに取り組んだ。これまでの夜勤フリーの業務を廃止し、新人看護師が受け持ちをできるような体制を整備した。次年度はこの見直した「固定チーム継続受け持ち制」の評価を行っていくことが課題である。

4) みなとスケジューラーでの院内外教育研修の管理

ラダー研修の申請から事後報告までは定着しているため、みなとスケジューラーを導入した平成 26 年からの院内研修及び院外研修報告が入力できるようにシステム構築した。今後は、全看護師がみなとスケジューラーをポートフォリオとして活用することとデータを研修計画に活かすことができることが課題としてあげられる。

平成28年度 実践者・管理者ラダー レベル別研修計画

※ラダー
○研修担当者

レベル分類	研修会名	担当者	研修委員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
レベル I	フォローアップ研修① (15:30～17:00)	※堀中(係) 朝比奈(係) 関口(代) ○西村(代) 矢澤(代)	上野	オリエンテーション (院内) (室)			医療と診療情報 (記録委員会) 7/7		フィジカルアセスメント (急変時のアセスメント) (16:00～17:30) 白井(代)	多量読解演習 10/24 10/31 (16:00～18:00)	熟読法対 初級コース② 11/14		フォローアップ研修② 1/11 (15:30～17:30)		
				テクニカルチェック ⇒年間 集合技術研修											
レベル II	フィジカルアセスメント	※○山下(係) 豊田(代) 白井(係)			研修① 5/9		研修② 7/4		研修③ 9/5		研修④ 11/7	研修⑤ 12/5			
	赤十字と看護倫理 II										赤十字と看護倫理 II 11/30				
	看護と診療情報	※金井(係) 中川(係) 佐藤(代)	堤				看護と診療情報 7/22								
	看護とコミュニケーション II								看護とコミュニケーション II 9/30						
	ナラティブ				研修① 5/23				研修② 9/26						
レベル III	実地指導者	※○時田(係) ○三浦(代) ○渡谷	石林	研修① 3/23	研修② 5/2	研修③ 6/13		研修④ 8/31					研修⑤ 1/18		
	リーダーシップとメンバースhip	※○宮崎 ○京田			研修① 5/25		研修② 7/29						研修③ 1/25		
	看護倫理 III	※○藤田 ○米村(代)				研修① 6/30					研修② 11/16				
	看護研究(入門)	※三井(係) 梶子(代)			研修① 5/30			研修② 8/22					研修③ 1/27		
	マネージメント入門	※嶋田 ○照井(代)				研修① 6/22		研修② 8/29					研修③ 1/23		
レベル II～III	フィジカルアセスメント 上級コース	※佐藤(係・監) 藤田(係・監)				研修① 6/20			研修② 9/28			研修④ 12/21			
	認知症ケア	※○松井 上野(係・監)			研修① 5/16	研修② 6/27		研修③ 8/24				研修④ 12/19			
	口腔ケア	※田嶋(代) ○重田(代) 大塚(係・監)			研修① 6/29	研修② 7/25			研修③ 9/6			研修④ 12/7			
	退院支援	※佐伯(代) ○内藤 (監・係)			研修② 6/7		④ 退院研修 6/1～8/30					研修⑤ 12/12			
	災害救護	※津野(係) 神田(代) 宮本 永井(係)オプ			研修① 4/25										
レベル II～III	看護法対	※○藤村 ○金沢(代) 角崎(係)オプ		オリエンテーション・ 技術研修 初級コース①④/15 必須コース4/5											
	初級コース②中級コース レベル I レベル II														
レベル II～ 管理者ラダー レベル I	教育担当者研修	※藤部(係) 川前(代)	石林	研修① 研修② 3/23 4/26	研修③ 5/11	研修④ 6/24			研修⑤ 9/29				研修⑥ 1/30		
管理者ラダー レベル I	新任係長研修	※上野(係) 高松(係)			研修① 5/16	研修② 6/8	研修③ 7/13	研修④ 8/10							
	新任師長研修	※間瀬(監) 上野(係)	間瀬	研修①③/23 研修②/4/20		研修② 6/15			研修④ 9/20					研修⑤ 2/15	

5-3 職員研修（薬剤部）

1 データ

部内研修実績

- ・Quality Indicator (QI) からの個人目標へのつなげ方 1回
- ・ランチタイムセミナー 28回
- ・文献検索、DI 情報取扱いに関する研修 2回
- ・治験薬に関する勉強会 7回
- ・がんに関する勉強会 8回
- ・感染に関する勉強会 4回
- ・NST に関する勉強会 3回
- ・他職種を講師として招聘して行った勉強会 2回
- ・学会報告会 15回
- ・病棟関連業務に関するオーディット及び勉強会 8回
- ・各種抄読会 3回
- ・共有事例研究 3回

学会発表

- ・日本医療薬学会 4演題
- ・かながわ薬剤師学術大会 2演題
- ・日本腎臓病薬物療法学会総会 1演題
- ・日赤医学総会 1演題
- ・日本癌治療学会学術集会 1演題
- ・日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会 1演題

講演

- ・横浜・鎌倉病院薬剤師講演会 1演題
- ・横浜・川崎がん病病連携会講演会 1演題
- ・神奈川県病院薬剤師会ファーマシーマネジメントセミナー 1演題
- ・千葉県病院薬剤師会南房総臨床薬学セミナー 1演題

2 成果

- ・薬剤部内において部員会でのプログラムの作成し、部内研修委員を中心に部員会をはじめとした研修の質の向上に努めている。
- ・専門、認定薬剤師取得を見据えた研修及び学会に積極的に参加し、その結果について部内フォーマットによる書面報告や部員会における口頭報告を実施し、その成果を部全体で共有している。また研修成果として学会発表（論文投稿を含む）を積極的に行っている。
- ・QI をもとに、個人目標シートを作製するとともに年2回の面談を実施し目標達成度と次の目標を確認しながら所属長および研修担当と各職員が

情報を共有することとし継続的に実施している。

- ・ 当院の臨床研修センターによる新人研修により他職種との連携の必要性についても研修している。また研修医を対象としたモーニングセミナーにも年間を通して積極的に参加し臨床上において必要な知識を学んでいる。

3 課題

- ・ 薬剤師教育ラダーを活用し教育・評価を行っていく
- ・ 専門、認定薬剤師取得者を増加させるため、研修、学会への参加を更に積極的に進める。また、他施設の見学及び研修も積極的に進め、専門、認定の必要性についても理解を深める。
- ・ 設定した個人目標を確実に達成させ、個々の質を高めるとともに薬剤部全体の質を高めるよう目標シートの活用や部員会の充実に努める。

5-4 職員研修（医療技術部門）

1 データ

研修会名	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
新規採用者オリエンテーション	4 月開催	4 月開催	4 月開催
インシデント報告ツール説明会	4 月開催	4 月開催	4 月開催
医療技術部門合同研修会	年間 17 回開催	年間 5 回開催	年間 6 回開催
チーム医療ワークショップ	年間 2 回開催	年間 2 回開催	年間 2 回開催
各部門研修（5 部門）	（記録なし）	年間 40 回開催	年間 69 回開催

2 成果

医療技術部門全体で行う研修企画（開催）を減らし、一方で各部門独自の研修開催を増やした。

部署による取り組みの差はあるが、全部署で実施し、成果を上げることができた。

3 課題

前年に引き続き、積極的な院内研修の参加、各部門内での研修の実施をサポートするとともに、専門職の認定資格取得、学会発表および論文化を推進していく。また、医療技術職員全員に、「もっと見える、もっと身近な研修」を構築していく。

5-5 職員研修（事務部）

1 データ

	平成 27 年度	平成 28 年度
レベル 1 (入社 1 年目)	対象者 5 人 総合案内研修 (5・10 月) コミュニケーションスキル研修 (月) など 21 回	対象者 8 人 総合案内研修、他部署体験、 コミュニケーションスキル研修 など 11 回
レベル 2 (入社 2 年目)	対象者 10 人 業務改善成果発表 目標管理など 8 回	対象者 4 人 業務改善成果発表 目標管理など 8 回
レベル 3 (中堅)	対象者 36 人 ハイパフォーマー観察研修 など 6 回	対象者 40 人 ハイパフォーマー観察研修 など 13 回
レベル 4 (係長クラス)	対象者 14 人 防災研修 など 5 回	対象者 15 人 新人教育研修、会計制度研修 など 5 回
レベル 5 (課長クラス)	対象者 13 人 暴力対応研修、防災研修 など 5 回	対象者 13 人 コーチング講習会、目標管理研修 など 2 回

2 成果

レベル別教育研修のうち、レベル 1 及び 2 については、研修内容および習熟度の判定（効果測定）についても定着し、レベル 4 及 5 については、職位により研修課題をテーマにした研修を実施することができた。レベル III については、様々な研修体系と多彩な研修テーマで多くの研修会を実施することができた。

3 課題

レベル 3 の対象者の研修参加率の改善が課題となる。組織内で実務の中核をなす職員が対象となるため、時間内の集合研修の開催に参加できない職員もいる。また、レベルを問わず、指導をする側、受ける側双方が、OJT を意識した職場風土の醸成に努め、職場内で OJT の促進と浸透が課題となっている。

6 院外からの研修受入れ

6-1 院外からの研修受け入れ（看護部）

1. データ

1) 研修受け入れ数（添付資料参照）

(1) 看護基礎教育実習

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
受け入れ総数	326 名	387 名	395 名

(2) 卒後教育実習

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
受け入れ総数	14 名	11 名	13 名

2) 実習指導者研修

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
実習指導者研修修了者数※	15 名	20 名	24 名

※看護師長、日本赤十字看護大学実習指導者研修は含めず

2. 成果と課題

1) 基礎教育実習と卒後教育実習の受け入れ

- (1) 基礎教育実習は、今年度計画した 2 大学（日本赤十字看護大学、創価大学）、3 看護専門学校（神奈川県立よこはま看護専門学校、神奈川県立衛生看護専門学校、横浜市病院協会看護専門学校）を受け入れた。今年度は、昨年より 8 名多い 395 名の学生を受け入れた。今後も神奈川県内の看護学生の受け入れを増やすように計画する。
- (2) 卒後教育では、認定看護師養成課程、認定看護管理者養成課程、大学院修士課程等の学生を 13 名受け入れた。実習指導は、その領域の専門看護師・認定看護師・看護管理者が指導し、実習目標を達成した。その他、日本赤十字社東部ブロック医療施設「施設体験」や神奈川県看護協会からの地域連携の研修会を受け入れ、他施設との交流を図り相互に学びを得ている。

2) 実習指導者の育成

今年度は、実習指導者研修（長期）に 2 名派遣した。また、日本赤十字社幹部看護師研修センター赤十字看護管理者研修 I においても実習指導者研修が行われるようになり、実習指導者の育成に繋がっている（H28 年度までで計 4 名）。看護部での臨床指導者委員会では、日本赤十字看護大学ボランティアセンターでの実習指導者育成のための研修を終了した指導者が大半である一方、実習指導者の長期研修修了生は 16 部署中 2 名と少ない。本社からの通達もあり、部署には 2 名以上の実習指導者の配置が望ましいことから、長期実習指導者研修生の増員を目指す。

6-2 院外からの研修受入れ（薬剤部）

1 データ

研修名	26年度	27年度	28年度
薬科大実務実習	10名	15名	16名
早期体験実習	24名	25名	24名
学生版薬薬連携実習	27名	27名	34名

2 成果

薬科大実務実習では、提携大学数を拡大しコアカリキュラムのプログラムを中心に臨床現場に重点を置き、学生一人一人に実習担当として薬剤師を配置して臨床に則した実習を行った。また、薬薬連携を目的とし近隣調剤薬局の学生とともに当院の患者に対する症例検討を学生版薬薬連携実習として実施した。また薬科大の早期体験実習、中学生の職場体験実習、神奈川県病院薬剤師会実務実習の受け入れを行った。

3 課題

29年度の実務実習では、新コアカリキュラムを見据えた実習内容を実現させる足掛かりとするため、これまで以上に、病棟業務を中心とした臨床に則した充実した実務実習を実施する。災害救援等においても日赤病院としての役割について外部講師を招き、実務実習の1コマとして講演会を実施する。その他の実習受け入れも積極的に実施する。

6-3 院外からの研修受け入れ（リハビリテーション科部）

1 データ

リハビリテーション実習生受け入れ状況

平成 26 年度：理学療法評価実習生	1 名	理学療法臨床実習生	2 名
作業療法臨床実習生	1 名		
平成 27 年度：理学療法評価実習生	1 名	理学療法臨床実習生	2 名
作業療法評価実習生	1 名	作業療法臨床実習生	1 名
平成 28 年度：理学療法評価実習生	1 名	理学療法臨床実習生	4 名
作業療法評価実習生	1 名	作業療法臨床実習生	1 名

2 成果

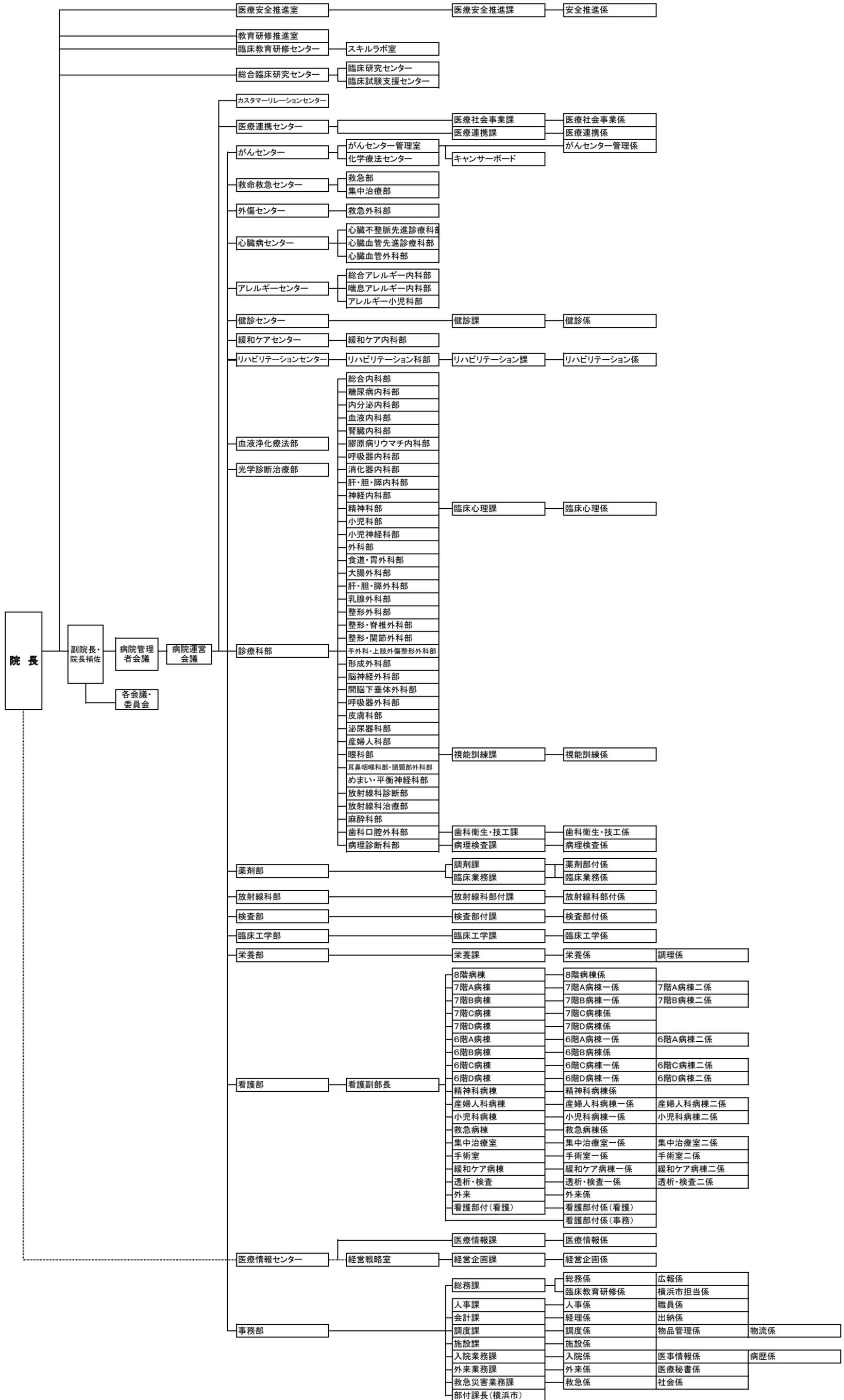
平成 28 年度も理学療法及び作業療法学生の実習を受け入れることができた。特に理学療法は前年度に比べ 2 名多く受け入れた。実習を通して、学生には急性期医療の現場を十分に体験させることが出来、急性期リハビリテーションについて学習する良い機会となった。また、実習指導を担当したスタッフは、後輩の育成についての研鑽を積む機会を得ることが出来た。

3 課題

実習生を受け入れる上で問題になるのが、実習担当スタッフの時間的、精神的負担である。さらには、スタッフの実習指導のスキルをいかに育ていくかも重要な課題である。リハビリテーションスタッフは 1 単位 20 分という時間の制約のなかで、患者の診療に関わるため、どうしても超過勤務を余儀なくされてしまう。また、実習生の評価をする立場になるため、評価者になることへの少なからずの抵抗がある。特に年齢の若いスタッフはなおさらである。その中でいかにして、後輩たちを優秀な人材に育て、担当スタッフのスキルをどう向上するかが今後の課題である。

7 職員

横浜市立みなと赤十字病院 組織図 2016.7.1



7-2 職員配置状況

	職 種	配置 人員数	内 訳			備 考
			常勤	非常勤	派遣職員等	
管 理 部 門	事 務 職 員	194.9	65	15.9	114	看護師2名含む
	技 術 職 員	3.0	3	-	-	
	運 転 手	0.0	-	-	-	
	ボイラー技師	0.0	-	-	-	
	電話交換手	0.0	-	-	-	
診 療 部 門	医 師	220.7	208	12.7	-	
	歯 科 医 師	5.1	5	0.1	-	
看 護 部 門	看 護 師	643.2	628	15.2	-	
	准 看 護 師	2.0	2	-	-	
	看 護 助 手	64.5	25	24.5	15	
	事 務 職 員	19.0	2	1	16	保育士1人含む
健 診 部 門	看 護 師	4.0	4	-	-	
	事 務 職 員	11.0	2	-	9	
連 携 部 門	社 会 福 祉 士	8.0	8	-	-	
	精神保健福祉士	2.0	2	-	-	
	看 護 師	5.0	5	-	-	
	事 務 職 員	10.0	7	2.0	1	
検 査 ・ 医 療 技 術 部 門	薬 剤 師	41.0	41	-	-	
	診療放射線技師	34.0	33	1.0	-	
	臨床検査技師	42.0	41	1.0	-	衛生検査技師1含む
	理学療法士	19.0	19	-	-	
	作業療法士	9.0	9	-	-	
	言語聴覚士	4.0	4	-	-	
	マッサージ師	0.0	-	-	-	
	臨床工学技士	12.0	12	-	-	
	視能訓練士	2.0	2	-	-	
	歯科衛生士	4.0	3	1.0	-	
	臨床心理士	2.0	2	-	-	
	管理栄養士	10.0	9	1.0	-	
	栄 養 士	0.0	-	-	-	
	調 理 師	6.0	6	-	-	
事 務 職 員	5.0	-	-	5	治験事務の派遣・委託	
その他		3.1	0	0.1	3	アレルギーセンター事務3.1
合 計		1385.5	1147	75.5	163	

8 施設管理

8-1 医療機器の整備状況

購入単価500万円以上のもの

	部門名ごとに整理 (中央・看護・管理・診療等)	機器名称	用途	新規・更新
1	中央	ナビケーションユニット	手術用	新規
2	中央	ハイビジョンカメラシステム	手術用	新規
3	中央	X線画像診断システム(FPD)	放射線科用	更新
4	診療	汎用超音波画像診断装置	耳鼻科用	新規
5	中央	手術用顕微鏡	手術用	更新
6	中央	誘発反応測定装置	手術用	新規
7	中央	ポータブル脳波計	検査部用	更新
8	診療	遠心型血液成分分離装置	血液内科用	更新
9	中央	超音波画像診断装置	検査部用	更新
10	診療	超音波診断装置	産婦人科用	更新
11	中央	脳波計	検査部用	更新
12	中央	超音波吸引器	手術用	更新
13	診療	アストグラフ	アレルギーセンター用	更新

8-2 施設設備改修報告

(平成28年度)

	部門名ごとに整理 (中央・看護・管理・診療等)	施設・設備名称	面積(m ²)	用途	新規・修繕
1	2階健診センター	男子トイレ用途変更改修工事	1.4m ²	男性小用便器から洋式便器へ変更	修繕
2	1階呼吸器病センター・整形外科・形成外科外来	診察室増設改修工事	8.59m ²	診察スペースの増設	修繕
3					
4					
5					
6					
7					

8-3 施設設備管理報告 法定及び自主点検業務

法定点検業務等	点検種別	周期	平成28年(2016年)												関連法規及び保守管理基準		
			実 施 月														
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
特定建築物	定期検査	1回/1~3年							●								建築基準法
昇降機設備	定期検査	1回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	建築基準法
自家用電気工作物	定期検査	1回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	電気事業法
ボイラー	性能検査	1回/年															労働安全衛生法
第1種圧力容器	性能検査	1回/年															労働安全衛生法
コンドミ	性能検査	1回/年														●	労働安全衛生法
第2種圧力容器	自主検査	1回/年															労働安全衛生法
小型ボイラ設備	自主検査	1回/年															労働安全衛生法
簡易専用水道	定期検査	1回/年														●	水道法
ガスタービン(ガス圧縮機)	定期検査	1回/3年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	電気事業法
消防設備	定期検査	2回/年														●	消防法
地下タンク貯蔵所	定期検査	1回/3年															消防法(27年度実施次回30年実施)
避難はしご設備	自主点検	2回/年														●	消防法
高圧ガス製造設備	自主点検	1回/年														●	高圧ガス保安法
医療ガス設備	定期点検	4回/年														●	高圧ガス保安法
特定施設(水質測定)	定期点検	1回/月	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	下水道法
ばい煙測定	定期検査	2回/年														●	大気汚染防止法
特高受変電設備定期検査	定期検査	1回/年															電気事業法
高圧受変電設備定期検査	定期検査	1回/年															電気事業法
無停電電源設備保守及び定期点検	定期検査	1回/年														●	電気事業法
(非常用照明)	定期検査	(1回/年)															電気事業法
直流電源設備保守及び定期点検	定期検査	1回/年															電気事業法
電力中央監視設備保守及び定期点検	定期検査	1回/年														●	電気事業法
建築設備定期検査	定期検査	1回/年															建築基準法
受水槽・高架水槽定期清掃	定期検査	1回/年														●	水道法
飲料水水質検査	定期検査	2回/年														●	水道法
害虫定期駆除	定期検査	1回/月	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	ビル管理法

機能維持に関する保守管理等	管理種別	周期	実 施 月												関連法規及び保守管理基準			
			平成28年(2016年)						平成29年(2017年)									
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
放送呼出装置	自主点検	2回/年				●									●			消防法
ナースコール・インターホン設備	自主点検	2回/年				●												メーカー標準点検
昇降機設備	自主点検	1回/月	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	建築基準法
冷凍機設備	自主点検	3回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	メーカー標準点検
冷却塔設備	自主点検	2回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	自主点検
空調調和設備	機能点検	2回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	自主点検
空調自動制御設備	自主点検	1回/年																メーカー標準点検
バッテリー点検	定期点検	1回/3年																フロリオン排出抑制法(27年度より実施)次回30年実施
チャラー点検	定期点検	1回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	フロリオン排出抑制法(27年度より実施)
各種水槽設備	清掃	1回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	横浜市条例
検査系排水処理設備	定期点検	1回/月	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	メーカー標準点検
R1排水処理設備	自主点検	2回/年																放射線障害防止法
自動ドア設備	自主点検	2回/年																メーカー標準点検
駐車場管理設備	自主点検	2回/年																メーカー標準点検
搬送設備	自主点検	2回/月	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	メーカー標準点検
冷却塔補給水薬注装置	自主点検	1回/月	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	自主点検
厨房グリッドフィルター定期清掃業務	清掃	4回/年																自主管理
厨房グリッドトラップ定期清掃業務	清掃	6回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	ビル管理法

その他の保守管理業務	管理種別	実施回数	実 施 月												関連法規及び保守管理基準			
			平成28年(2016年)						平成29年(2017年)									
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
空調機等フィルター交換(洗浄)	洗浄	1回/月	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	汚れが認められたら交換
窓清掃	清掃	2回/年			●													汚れにより適宜行う
工チレンオキシド環境測定	定期点検	2回/年			●													労働安全衛生法
ホルムアルデヒド作業環境測定	定期点検	2回/年			●													労働安全衛生法

8-4 外部委託（平成28年度）

	委託業務の名称	主な業務内容	受託者（会社名）	主管部署
1	食事療養提供業務	患者用給食の調理、給食材料管理補助、食器洗浄等衛生管理補助、配膳・下膳業務	日清医療食品株式会社	栄養課
2	中央滅菌材料室・手術室器材の洗浄・滅菌業務	使用済器材の回収・洗浄・滅菌・供給業務	日本ステリ株式会社	調度課
3	検体検査業務	検体検査業務	株式会社ビー・エム・エル	検査部
4	患者用ベッド洗浄業務	ベッド等の清拭・定期点検業務	株式会社柴橋商会	調度課
5	寝具賃貸借及び洗濯業務	患者用寝具・職員当直用寝具賃貸借業務、洗濯全般業務	株式会社サンビームランドリー	調度課
6	白衣等リース業務	看護師、看護助手、SPDの白衣及びタオルのリース	株式会社柴橋商会	調度課
7	白衣等リース業務	医師、コメディカルの白衣のリース	株式会社サンビームランドリー	調度課
8	SPD物流管理サービス業務	医療材料の物流管理業務	株式会社ホスピタルパートナーズ	調度課
9	医薬品院内物流管理業務	購買管理補助業務 薬品在庫管理業務 配置定数薬の補充管理業務 搬送業務等	東邦薬品株式会社	薬剤部
10	医事関連業務	外来部門の計算・受付・クラーク業務及び保険請求関連業務	株式会社ソラスト	入院業務課 外来業務課
11	健診センター関連業務	受診者対応、会計・計算業務等	株式会社ソラスト	健診センター
12	医療情報センター関連業務	医事統計の作成、データ分析、システム障害対応等	株式会社ソラスト	医療情報課
13	治験事務関連業務	治験事務局支援業務及び治験審査委員会事務局支援業務	株式会社E P ファーマライン	薬剤部
14	病棟クラーク業務	入退院手続、書類作成、入院患者の面会者対応	株式会社日本教育クリエイト	看護部
15	院内保育所運営業務	職員子女の保育業務	株式会社ポピンズ	総務課
16	施設管理	施設設備の運転及び点検業務	高砂丸誠 エンジニアリングサービス株式会社	施設課
17	警備業務	院内外の警備業務	国際警備株式会社	施設課
18	清掃業務	外回り外来部門・病棟・手術室・事務室等院内清掃業務	高砂丸誠 エンジニアリングサービス株式会社	施設課
19	産業廃棄物処理業務	院内から出されるゴミの収集運搬及び処理業務	株式会社神奈川保健事業社	施設課
20	一般廃棄物処理業務	院内から出されるゴミの収集運搬及び処理業務	株式会社神奈川保健事業社	施設課
21	感染性廃棄物収集運搬処理業務	院内から出される感染性廃棄物の収集運搬及び処理業務	株式会社トキヨ薬品化工	施設課
22	医薬品（医療ガス）供給業務	医療用液体酸素・医療用液体窒素・医療用酸素ガス等の供給業務	株式会社イワサワ	施設課
23	ナースコール設備保守点検	ナースコール設備保守点検	株式会社ケアコム	施設課
24	院内ネットワークシステム保守点検	院内LANシステム保守点検	富士ゼロックス神奈川株式会社	医療情報課
25	自動尿測定システム保守点検	自動尿測定システム保守点検	円田医科工業株式会社	施設課

9 經營報告

平成28年度

診療科別患者数等管理数値

診療科	外来(243日)				入院(365日)								救急患者								
	新患者数		延患者数		1日平均		新入院数		退院数		延患者数		1日平均		在院日数		救急患者				
	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度	
総合内科	1,002	1,028	1,727	1,671	7	7	167	144	14	1	284	241	1	1	1.7	1.6	1,056	180	212	20.1	
糖尿病内分泌内科	531	591	13,218	14,774	54	61	373	338	31	428	5,751	5,388	16	15	11.5	11.8	93	63	75	80.6	
血液内科	162	197	4,053	3,945	17	16	369	347	31	391	7,075	6,755	19	18	16.9	17.8	52	30	42	80.8	
腎臓内科	338	257	6,011	5,292	25	22	293	219	24	354	5,694	4,182	16	11	13.5	13.2	116	78	93	80.2	
膠原病リウマチ科	262	279	7,914	7,334	33	30	125	113	10	162	2,950	2,809	8	8	15.7	16.9	24	9	15	62.5	
緩和ケア内科	231	243	391	453	2	2	154	154	13	245	7,283	5,012	20	14	(35.8)	(29.0)	7	7	7	100.0	
呼吸器内科	1,135	1,319	12,191	12,830	50	53	1,124	1,197	94	1,093	15,288	18,377	42	50	11.9	13.5	690	454	548	79.4	
消化器内科	2,524	2,917	23,257	25,285	96	104	1,931	1,875	161	1,857	21,145	22,007	58	60	11.1	11.6	1,274	569	765	60.0	
循環器内科	1,394	1,239	15,288	14,499	63	60	1,780	1,633	148	1,764	15,336	13,679	42	37	7.4	7.2	602	365	482	80.1	
神経内科	636	604	7,483	6,546	39	27	569	483	47	569	14,494	11,994	40	33	22.5	20.9	474	324	392	82.7	
アレルギー科	368	322	6,018	5,180	25	21	56	36	5	55	364	153	1	0	5.4	3.0	60	24	32	53.3	
小児科	4,092	4,298	15,153	17,198	62	71	1,106	1,296	92	1,114	5,604	6,677	15	18	4.6	4.4	3,076	879	410	13.3	
外科	611	697	9,774	10,443	40	43	1,124	1,356	94	1,178	13,694	15,377	37	42	10.4	10.0	317	146	239	75.4	
乳腺外科	683	702	9,051	8,158	47	42	246	226	21	245	2,184	2,244	6	6	7.7	8.5	26	4	4	15.4	
呼吸器外科	17	29	1,632	1,525	11	11	75	80	6	94	759	877	2	2	6.9	7.5	1	1	1	100.0	
心臓血管外科	140	130	1,943	1,376	13	10	181	175	15	207	4,186	3,768	11	10	15.4	15.3	63	47	57	90.5	
脳神経外科	827	748	3,721	3,525	25	24	397	372	33	400	7,802	7,864	21	21	17.9	18.8	670	277	313	46.7	
整形外科	2,776	3,068	23,278	23,695	119	123	1,345	1,215	112	1,377	21,356	20,352	59	56	14.1	14.5	897	311	328	36.6	
形成外科	617	777	4,339	5,091	22	26	112	154	9	136	2,265	2,380	6	7	15.8	13.0	257	9	12	4.7	
皮膚科	1,434	1,634	11,302	12,023	47	49	147	168	12	153	1,430	1,907	4	5	7.8	9.7	238	10	21	8.8	
泌尿器科	1,087	1,221	13,926	15,023	57	62	957	901	80	946	8,316	8,319	23	23	9.5	9.3	393	86	117	29.8	
産婦人科	1,100	1,988	19,379	30,346	80	125	1,097	1,369	91	1,107	8,534	9,738	23	27	6.8	6.1	746	98	483	64.7	
眼科	555	621	9,459	8,279	39	34	267	296	22	271	832	1,007	2	3	3.5	6.2	6	1	0	0.0	
耳鼻いんこう科	2,014	878	12,826	7,953	53	41	598	146	50	580	4,785	811	13	2	7.0	4.3	205	60	84	41.0	
リハビリテーション科	3	12	1,428	1,032	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0	0	0	0.0	
精神科	331	398	10,762	10,547	55	55	201	188	17	218	9,052	9,529	25	26	21.0	26.1	70	21	60	85.7	
放射線診断科	1,257	1,364	1,475	1,593	8	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0	0	0	0.0	
放射線治療科	49	67	4,821	5,031	25	21	58	57	5	55	1,080	1,381	3	4	17.7	21.2	1	1	1	100.0	
歯科口腔外科	2,257	2,268	12,329	12,228	51	50	383	378	32	384	707	785	2	2	0.8	1.1	10	4	3	30.0	
救急科	8,275	7,112	12,135	10,408	33	28	712	807	59	583	8,077	7,186	22	20	9.4	7.4	11,880	8,565	777	6.5	
麻酔科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平成28年度 合計	36,708	37,008	276,284	283,283	1,137	1,166	15,947	15,723	1,329	15,967	196,307	190,799	538	521	10.5	10.4	23,304	12,623	5,573	23.9	
平成28年度	病床利用率・・・84.8% 紹介介...95.3% 逆紹介...78.6% 分娩件数・・・666件																				
平成27年度	病床利用率・・・82.2% 紹介介...82.1% 逆紹介...70.3% 分娩件数・・・964件																				

平成28年度

診療科別患者数等管理数値

稼動額は、千円単位 収入単価は、円で表示

診療科	外来診療収入				入院診療収入				入外合計額				手術		心カテ	
	診療収入		収入単価		診療収入		診療収入(室料差額除)		収入単価		当年度平均		前年度平均		当年度	前年度
	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度
総合内科	23,668	23,861	13,705	14,280	28,346	24,118	27,556	23,400	97,028	97,093	52,013	47,979	4,334	3,998	0	0
糖尿病内分泌内科	188,439	195,597	14,256	13,239	257,829	243,078	244,277	234,871	42,476	43,592	446,269	438,675	37,189	36,556	4	0
血液内科	136,492	167,282	33,677	42,404	549,639	531,370	541,518	522,126	76,540	77,295	686,131	698,652	57,178	58,221	0	2
腎臓内科	101,031	87,956	16,808	16,620	301,901	236,642	290,173	228,464	51,051	54,630	402,933	324,597	33,578	27,050	10	3
膠原病リウマチ科	202,306	180,845	25,563	24,658	142,876	125,305	138,447	120,850	46,931	43,022	345,181	306,150	28,765	25,512	2	2
緩和ケア内科	2,869	2,850	7,338	6,292	397,996	280,321	348,572	244,188	47,586	48,721	400,865	283,171	33,405	23,598	0	0
呼吸器内科	267,050	208,716	21,905	16,268	834,958	947,715	787,249	889,346	51,495	48,395	1,102,008	1,156,430	91,834	96,369	1	1
消化器内科	319,747	319,712	13,748	12,644	1,207,091	1,269,949	1,150,605	1,202,695	54,415	54,651	1,526,839	1,589,660	127,237	132,472	3	4
循環器内科	215,632	215,389	14,105	14,855	2,984,192	2,765,253	2,950,781	2,737,802	192,409	200,146	3,199,824	2,980,642	266,652	248,387	23	26
神経内科	83,132	68,000	11,109	10,388	754,784	638,057	729,758	615,544	50,349	51,321	837,916	706,058	69,826	58,838	3	2
アレルギー科	53,182	40,905	8,837	7,897	20,393	9,478	19,666	8,983	54,028	58,710	73,575	50,383	6,131	4,199	0	0
小児科	171,151	172,943	11,295	10,056	321,218	399,078	315,121	392,560	56,231	58,793	492,369	572,021	41,031	47,668	0	0
外科	302,138	275,268	30,912	26,359	1,118,946	1,250,855	1,083,890	1,207,581	79,209	78,532	1,421,085	1,526,123	118,424	127,177	2	0
乳腺外科	299,489	278,609	33,089	34,152	204,857	190,820	196,696	180,065	90,062	80,243	504,346	469,429	42,029	39,119	0	0
呼吸器外科	35,710	27,813	21,881	18,238	101,745	109,846	99,865	108,012	131,574	123,160	137,455	137,659	11,455	11,472	0	0
心臓血管外科	20,749	15,343	10,679	11,151	902,383	765,987	895,078	758,381	213,827	201,269	923,132	781,330	76,928	65,111	55	41
脳神経外科	51,731	43,090	13,903	12,224	637,657	599,925	622,590	589,253	79,799	74,930	689,389	643,015	57,449	53,585	2	1
整形外科	177,573	177,849	7,628	7,506	1,593,370	1,556,110	1,545,067	1,509,541	72,348	74,172	1,770,943	1,733,959	147,579	144,497	2	0
形成外科	24,756	30,937	5,705	6,077	136,065	151,483	132,165	147,750	58,351	62,080	160,821	182,420	13,402	15,202	2	4
皮膚科	46,405	48,824	4,106	4,061	60,683	81,736	57,853	76,543	40,457	40,138	107,087	130,560	8,924	10,880	1	1
泌尿器科	217,657	216,905	15,630	14,438	586,590	585,436	561,662	563,085	67,540	67,687	804,247	802,341	67,021	66,862	1	0
産婦人科	137,597	188,076	7,100	6,198	714,639	857,725	686,663	825,305	80,462	84,751	852,237	1,045,801	71,020	87,150	0	1
眼科	70,500	62,692	7,453	7,572	65,139	90,073	63,317	87,965	76,102	87,354	135,639	152,766	11,303	12,730	0	0
耳鼻いんこう科	109,121	45,838	8,508	5,764	274,898	44,221	259,412	32,251	54,214	39,767	384,019	90,059	32,002	7,505	0	0
リハビリテーション科	5,361	3,952	3,754	3,830	-	0	0	0	0	0	5,361	3,952	447	329	0	0
精神科	65,815	66,249	6,115	6,281	347,272	342,353	339,339	338,042	37,488	35,475	413,087	408,602	34,424	34,050	0	0
放射線診断科	56,723	59,316	38,456	37,235	-	0	0	0	0	0	56,723	59,316	4,727	4,943	0	0
放射線治療科	89,752	99,478	18,617	19,773	62,184	75,423	59,559	70,898	55,147	51,338	151,936	174,901	12,661	14,575	0	0
歯科口腔外科	71,453	77,690	5,796	6,353	47,087	53,131	46,551	52,574	65,842	66,974	118,541	130,821	9,878	10,902	0	0
救急科	269,795	251,337	22,233	24,148	796,036	801,042	785,748	792,623	97,282	110,301	1,065,832	1,052,378	88,819	87,698	16	19
麻酔科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平成28年度合計	3,817,025	3,653,321	13,816	12,896	15,450,776	15,026,528	14,977,178	14,560,700	76,295	76,314	19,267,801	18,679,849	1,605,650	1,556,654	1,667	1,559

※入外合計額の前年平均は平成27年度平均

単位/千円	人間ドック		健康診断		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
平成28年	2,193	154,163	9,506	71,718	11,699	225,881
平成27年	2,033	141,110	9,151	66,703	11,184	207,813

中央部門業務件数(放射線部) H28年度

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
X線	胸部撮影 人数	3436	3287	3682	3578	3810	3447	3668	3764	3740	3757	3576	3806	43551
	腹部撮影 人数	610	549	666	591	785	667	663	718	684	648	558	649	7788
	骨部撮影 人数	1493	1666	1668	1565	1599	1650	1615	1764	1613	1714	1800	1840	19987
	その他単純撮影 人数	131	139	152	126	121	146	157	167	140	136	184	149	1748
	血管造影 人数	191	186	195	176	163	176	165	189	197	188	184	210	2220
	消化器造影 人数	172	171	218	230	284	231	266	267	278	248	261	233	2859
	泌尿器造影 人数	48	58	68	43	54	48	53	47	47	48	55	65	634
	透視他造影 人数	49	52	74	62	55	48	55	51	38	39	50	54	627
	骨塩定量 人数	116	132	153	153	181	168	168	176	164	155	174	180	1920
	ポータブル 人数	1619	1609	1385	1417	1490	1332	1469	1746	1742	1698	1554	1532	18593
	合計 人数	7865	7849	8261	7941	8542	7913	8279	8889	8643	8631	8396	8718	99927
	頭頸部 人数	884	987	902	960	918	894	981	971	1009	982	922	980	11390
	躯幹部 人数	1873	1838	1974	1887	2005	2017	2124	2138	2144	2204	2007	2076	24287
	合計 人数	2757	2825	2876	2847	2923	2911	3105	3109	3153	3186	2929	3056	35677
MRI 検査 人数	408	415	470	411	399	407	486	487	463	452	497	525	5420	
検査 人数	393	425	485	418	450	454	428	443	451	454	469	535	5405	
合計 人数	801	840	955	829	849	861	914	930	914	906	966	1060	10825	
RI 体外測定 件数	117	105	128	105	115	112	112	120	105	109	90	121	1339	
PET/CT 体外測定 人数	103	85	102	101	90	88	98	94	69	75	96	106	1107	
放射線 照射件数(入院) 件数	222	125	194	195	257	171	168	223	271	165	192	214	2397	
治療 照射件数(外来) 件数	460	449	489	359	253	386	383	384	470	382	413	485	4913	
合計件数 件数	682	574	683	554	510	557	551	607	741	547	605	699	7310	

平成28年度 臨床検査部業務実績

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
検体検査	一般(フランチ)	件数(項目数)	7,116	7,204	8,086	7,526	8,296	7,647	7,717	7,678	7,768	7,585	7,400	8,132	92,155	
	血液	件数(検体数)	18,693	19,096	19,769	18,757	20,378	22,294	19,400	20,800	20,645	21,090	19,678	20,957	241,557	
	血液凝固(フランチ)	件数(項目数)	7,972	7,896	7,920	7,357	7,726	7,444	7,623	8,131	8,147	8,307	7,600	8,004	94,127	
	生化学(フランチ)	件数(項目数)	153,069	154,120	161,025	154,616	165,955	158,058	158,377	169,683	169,084	170,890	159,354	171,435	1,945,666	
	免疫血清(フランチ)	件数(項目数)	7,232	7,221	8,189	7,674	7,882	7,562	7,732	8,025	8,025	8,185	8,608	7,632	8,515	94,457
	一般細菌	件数(検体数)	1,559	1,606	1,643	1,678	1,701	1,583	1,601	1,666	1,666	1,895	1,848	1,566	1,478	19,824
	栄養課職員便検査	従事者数	13	12	25	24	25	25	13	13	13	14	14	14	14	205
	抗酸菌	件数(検体数)	145	123	147	132	153	134	187	165	199	175	173	165	165	1,898
	迅速検査(フランチ)	件数(検体数)	395	259	246	279	278	271	295	388	611	798	541	438	4,799	
	血液ガス(フランチ)	件数(検体数)	871	878	901	918	929	886	926	1,091	1,151	1,095	873	959	11,478	
	合計	件数	197,065	198,415	207,951	198,961	213,323	205,904	203,871	217,640	217,698	220,410	204,831	220,097	2,506,166	
生理検査	心電図	件数	2,431	2,397	2,538	2,517	2,541	2,463	2,515	2,498	2,618	2,659	2,590	2,584	30,351	
	負荷心電図	件数	9	11	8	9	20	13	11	9	4	2	6	15	117	
	ホルター心電図	件数	81	102	121	82	89	87	109	109	102	94	96	101	1,173	
	血圧脈波検査	件数	123	110	102	93	116	118	133	110	113	123	144	113	1,398	
	自律神経検査	件数	13	29	31	35	33	41	50	39	26	29	39	43	408	
	呼吸機能	件数	402	393	506	446	461	398	443	409	420	388	409	417	5,092	
	筋電図検査	件数	2	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	2	8	
	脳波	件数	42	56	45	59	61	45	63	65	72	71	68	59	706	
	神経生理検査	件数	61	77	82	72	92	81	91	93	84	73	76	69	951	
	OAE	件数	74	88	72	64	77	73	48	44	36	31	37	36	680	
	体液量測定	件数	0	0	36	52	35	24	9	2	10	6	24	26	224	
	耳鼻科検査	件数	221	267	310	287	344	245	276	289	273	258	273	286	3,329	
	心エコー	件数	582	573	648	570	621	555	564	609	606	677	641	689	7,335	
	その他エコー	件数	829	879	1,048	938	1,000	963	1,000	970	938	892	995	993	11,445	
	心カテ	件数	141	131	140	126	119	127	116	117	147	138	143	148	1,593	
合計	件数	5,011	5,113	5,687	5,350	5,609	5,235	5,430	5,363	5,449	5,441	5,541	5,581	64,810		
病理検査	組織診断	件数	587	551	617	535	639	524	584	609	633	572	616	639	7,106	
	迅速診断	件数	25	20	35	29	27	29	32	32	26	29	21	25	330	
	細胞診断	件数	359	341	452	370	393	402	419	445	448	362	453	430	4,874	
	その他	件数	56	65	80	63	63	62	70	53	68	59	81	86	806	
	病理解剖	件数	1	0	1	1	2	1	0	1	2	1	2	0	12	
	合計	件数	1,028	977	1,185	998	1,124	1,018	1,105	1,140	1,177	1,023	1,173	1,180	13,128	
輸血関連検査	血液型	件数	649	606	669	647	660	605	649	663	622	700	675	796	7,941	
	不規則抗体	件数	623	573	589	598	619	542	612	668	620	625	552	670	7,291	
	クロスマッチ	件数	326	290	279	307	312	277	337	399	388	362	310	386	3,973	
	その他	件数	46	29	48	52	47	46	44	55	35	47	46	45	540	
	合計	件数	1,644	1,498	1,585	1,604	1,638	1,470	1,642	1,785	1,665	1,734	1,583	1,897	19,745	
	Ir-RBC	単位	650	462	358	526	448	454	536	780	568	568	462	632	6,444	
	FFP	単位	315	189	435	366	159	204	156	450	141	198	459	261	3,333	
	Ir-PC	単位	603	505	340	695	865	635	575	1,065	850	1,055	540	680	8,408	
	自己血	単位	0	6	2	4	8	9	4	0	2	6	0	8	49	
	合計	単位	1,568	1,162	1,135	1,591	1,480	1,302	1,271	2,295	1,561	1,827	1,461	1,581	18,234	
アレルギー	NIOX	件数	335	324	311	324	323	360	335	371	332	360	376	419	4,170	
	モストグラフ	件数	80	78	76	74	80	78	69	78	67	73	95	85	933	
	スパイロメトリー	件数	82	85	78	79	81	86	76	82	74	82	105	95	1,005	
	可逆性検査	件数	20	12	15	14	15	12	9	10	13	4	8	7	139	
	ブリックテスト	件数	10	21	24	18	12	33	19	20	13	25	17	29	241	
	精密肺機能	件数	0	0	1	1	3	0	2	4	0	1	0	0	12	
	合計	件数	527	520	505	510	514	569	510	565	499	545	601	635	6,500	
時間外院内検査	患者数	2,593	2,604	2,184	2,565	2,365	2,466	2,528	2,828	3,264	3,275	2,439	2,552	31,663		
外来採血患者	患者数	5,409	5,599	6,051	5,550	5,964	6,030	5,552	5,811	5,907	5,818	5,607	6,380	69,678		
入院患者採血管準備数	患者数	3,734	3,447	3,858	3,551	3,857	3,496	3,586	4,023	3,751	3,786	3,909	4,064	45,062		
尿素呼気試験	患者数	26	26	27	27	30	27	24	26	28	22	28	29	320		
委託業務	院内検査業務委託	件数(項目数)	66,081	68,110	69,895	69,737	69,404	68,367	67,036	75,059	73,916	74,623	68,585	74,450	845,263	
	外注検査業務委託	件数(項目数)	11,927	10,518	13,063	11,461	11,256	11,809	11,378	12,140	12,903	10,677	11,852	12,750	141,734	
診療連携	心臓カテーテル検査に2名、耳鼻科に1名、アレルギーセンターに1名、それぞれ検査技師を派遣															

中央部門業務報告(処方箋枚数)

平成28年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入院 処方	13,276	13,007	14,036	12,845	13,439	12,897	13,966	13,999	14,080	13,925	13,565	14,634	163,669
入院 注射	13,477	13,238	12,109	12,679	12,693	11,810	12,768	13,861	14,147	14,020	12,604	12,436	155,842
外来 処方	34	36	39	44	41	44	40	53	57	57	50	32	527
外来 時間外処方	505	551	453	622	563	538	613	615	615	705	534	601	6,915
外来 注射	2,217	2,122	2,385	2,191	2,155	2,262	2,448	2,789	2,686	2,449	2,331	2,520	28,555
院外処方箋	10,294	10,378	11,071	10,203	11,015	10,642	10,415	10,668	11,126	10,730	10,534	11,631	128,707
抗がん剤混注	534	510	534	538	533	536	521	568	561	544	546	558	6,483
TPN調製	47	54	9	0	20	6	55	72	85	64	51	65	528
服薬指導	1,728	1,663	1,825	1,778	2,017	1,793	1,885	1,865	1,808	1,905	2,015	2,105	22,387

中央部門業務報告（栄養課）

平成28年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
一般食 件数	29,300	29,569	28,299	29,308	28,656	26,854	29,293	28,604	28,436	29,610	26,894	28,319	343,142
治療食 件数	8,353	8,938	9,331	9,490	8,815	8,046	9,196	9,782	9,669	9,556	10,146	10,871	112,193
調乳 件数	326	413	339	617	381	325	307	145	263	114	81	47	3,358
栄養相談 件数	203	211	255	251	270	249	257	246	229	235	273	309	2,988
合計 件数	38,182	39,131	38,224	39,666	38,122	35,474	39,053	38,777	38,597	39,515	37,394	39,546	461,681

中央部門業務報告(リハビリテーション科部)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
リ													
理	件数	3,916	4,113	3,881	3,841	3,415	3,653	4,049	3,760	3,774	3,711	3,996	45,932
ハ	件数	1,497	1,697	1,717	1,719	1,435	1,643	1,672	1,563	1,598	1,595	1,806	19,525
ビ	件数	1,059	1,115	1,061	968	840	892	1,028	896	845	771	680	11,159
リ	件数	6,379	6,728	6,891	6,568	6,428	6,188	6,749	6,221	6,217	6,077	6,482	76,618

中央部門業務報告(内視鏡室)

	2014年度	2015年度	2016年度
上部消化管内視鏡	4,949	5,187	5,399
(内ドック件数)	1,313	1,572	1,812
下部消化管内視鏡	1,991	2,429	2,308
(内ドック件数)	106	134	137
気管支鏡	215	277	250
ERCP	464	358	350

中央部門業務報告（透析室）

平成28年度

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
透 析	血液浄化療法	232	249	282	218	211	255	214	279	264	257	261	275	2,997
	件数													

中央業務報告（手術室）

平成28年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
全身麻酔	306	326	345	359	394	342	327	393	334	363	376	404	4,269
局所麻酔	103	109	110	110	103	94	113	124	110	123	113	136	1,348
その他麻酔	35	26	31	24	34	34	34	34	34	26	33	26	371
合計	444	461	486	493	531	470	474	551	478	512	522	566	5,988

損益計算書（平成28年度）

収 益	予算(A)	28年決算(B)	27年決算(C)	予算差引額(B-A)	昨年度比(B-C)	対昨年度増減率
みなと赤十字病院事業収益	20,206,759,000	20,153,199,612	19,570,365,440	-53,559,388	582,834,172	2.98%
医療収益	19,484,606,000	19,428,838,962	18,804,976,671	-55,767,038	623,862,291	3.32%
入院収益	14,904,999,000	14,944,765,012	14,509,514,984	39,766,012	435,250,028	3.00%
患者延べ数(人)	195,747	196,307	190,799	560	5,508	2.89%
患者1日平均(人)	536	538	521	2	17	3.17%
診療単価(円)	76,144	76,130	76,046	-15	83	0.11%
病床利用率(%)	84.59%	84.83%	82.23%	-2.24%	-0.14%	-0.17%
平均在院数(日)		10.50	10.40		0.10	0.96%
外来収益	3,758,964,000	3,718,767,107	3,513,052,919	-40,196,893	205,714,188	5.86%
患者延べ数(人)	280,911	276,284	283,283	-4,627	-6,999	-2.47%
患者1日平均(人)	1,156	1,137	1,166	-19	-29	-2.47%
診療単価(円)	13,381	13,460	12,401	79	1,059	8.54%
室料差額収益	479,133,000	459,954,630	453,223,710	-19,178,370	6,730,920	1.49%
保健予防活動収益	283,809,000	254,208,584	278,649,640	-29,600,416	-24,441,056	-8.77%
受託検査・施設利用収益	7,564,000	7,050,900	7,607,750	-513,100	-556,850	-7.48%
その他の医療収益	115,461,000	102,037,362	112,674,856	-13,423,638	-10,637,494	-9.44%
保険等査定減	-65,324,000	-57,944,633	-69,747,188	7,379,367	11,802,555	-16.92%
医療外収益(医療社会事業収益含む)	722,153,000	716,910,276	751,808,948	-5,242,724	-34,898,672	-4.64%
受取利息	1,463,000	972,460	1,145,352	-490,540	-172,892	-15.10%
本部繰入金	300,000	144,508	412,118	-155,492	-267,610	-64.94%
他会計繰入金	0	0	0	0	0	
運営費補助金等収益	440,864,000	408,716,826	443,228,477	-32,147,174	-34,511,651	-7.79%
施設設備費補助金等収益	44,997,000	47,474,391	45,745,966	2,477,391	1,728,425	3.78%
患者外給食収益	0	0	15,000	0	-15,000	-100.00%
その他の医療外収益	234,529,000	259,602,091	261,262,035	25,073,091	-1,659,944	-0.64%
特別利益	0	7,450,374	13,579,821	7,450,374	-6,129,447	-45.14%
固定資産売却益	0	0	0	0	0	
貸倒引当金戻入益	0	0	0	0	0	
その他前期損益修正益	0	5,005,563	0	5,005,563	5,005,563	
その他特別利益	0	2,444,811	13,579,821	2,444,811	-11,135,010	-82.00%

費 用	予算(A)	28年決算(B)	27年決算(C)	予算差引額(B-A)	昨年度比(B-C)	昨年度比(B-C)
みなと赤十字病院事業費用	19,970,607,000	20,337,033,921	19,446,380,826	366,426,921	890,653,095	4.58%
医療費用	19,438,492,000	19,643,543,613	18,964,293,365	205,051,613	679,250,248	3.58%
材料費	5,316,180,000	5,327,038,137	5,198,204,902	10,858,137	128,833,235	2.48%
薬品費	1,834,866,000	1,908,936,000	1,799,556,882	74,070,000	109,379,118	6.08%
診療材料費	3,244,577,000	3,164,271,910	3,170,938,679	-80,305,090	-6,666,769	-0.21%
給食材料費	131,131,000	157,541,574	123,386,907	26,410,574	34,154,667	27.68%
医療消耗品費	102,294,000	86,663,451	94,053,397	-15,630,549	-7,389,946	-7.86%
棚卸減耗損	3,312,000	9,625,202	10,269,037	6,313,202	-643,835	-6.27%
給与費	9,515,227,000	9,857,203,500	9,205,680,938	341,976,500	651,522,562	7.08%
委託費	1,825,512,000	1,840,320,428	1,772,908,188	14,808,428	67,412,240	3.80%
設備関係費	1,785,935,000	1,723,623,399	1,832,980,529	-62,311,601	-109,357,130	-5.97%
減価償却費	615,218,000	602,068,482	758,975,702	-13,149,518	-156,907,220	-20.67%
機器賃借料	27,744,000	17,499,027	5,925,395	-10,244,973	11,573,632	195.32%
指定管理者負担金他	670,204,000	671,960,021	672,343,720	1,756,021	-383,699	-0.06%
修繕費	234,317,000	145,031,699	152,644,787	-89,285,301	-7,613,088	-4.99%
機器保守料	237,546,000	286,288,953	242,250,228	48,742,953	44,038,725	18.18%
その他	906,000	775,217	840,697	-130,783	-65,480	-7.79%
研究研修費	53,758,000	59,781,238	47,511,272	6,023,238	12,269,966	25.83%
経費	941,880,000	835,576,911	907,007,536	-106,303,089	-71,430,625	-7.88%
通信費	21,000,000	19,024,465	19,372,988	-1,975,535	-348,523	-1.80%
消耗品費	89,800,000	78,915,678	88,298,230	-10,884,322	-9,382,552	-10.63%
水道光熱費	473,400,000	378,213,534	434,096,677	-95,186,466	-55,883,143	-12.87%
賃借料	150,000,000	160,819,949	151,747,177	9,072,772	10,819,949	5.98%
租税公課	20,726,000	23,477,033	31,224,498	2,751,033	-7,747,465	-24.81%
その他	186,954,000	175,126,252	182,267,966	-11,827,748	-7,141,714	-3.92%
医療外費用(医療奉仕費用含む)	529,857,000	539,292,097	461,139,884	9,435,097	78,152,213	16.95%
支払利息	17,836,000	17,293,069	21,690,427	-542,931	-4,397,358	-20.27%
患者外給食用材料費	2,015,000	1,110,267	1,924,811	-904,733	-814,544	-42.32%
看護師等委託養成費	28,800,000	28,200,000	25,800,000	-600,000	2,400,000	9.30%
診療費減価額	2,923,000	12,646,930	4,537,500	9,723,930	8,109,430	178.72%
本部繰出金	3,846,000	3,857,022	3,705,115	11,022	151,907	4.10%
他会計繰出金	3,799,000	4,727,164	12,983,288	928,164	-8,256,124	-63.59%
退職給付債務変更時差異	107,062,000	107,061,691	107,061,691	-309	0	0.00%
その他医療外費用	363,576,000	364,395,954	283,437,052	819,954	80,958,902	28.56%
特別損失	0	154,198,211	16,432,871	154,198,211	137,765,340	838.35%
固定資産売却損	0	0	35,912	0	-35,912	
固定資産除却損	0	1,058,009	9,625,685	1,058,009	-8,567,676	-89.01%
前期損益修正損	0	153,005,182	0	153,005,182	153,005,182	
その他特別損失	0	135,020	6,771,274	135,020	-6,636,254	-98.01%
法人税等	2,258,000	0	4,514,706	-2,258,000	-4,514,706	-100.00%

経常損益(特別収支を除いたもの)	238,410,000	-37,086,472	131,352,370	-275,496,472	-168,438,842	-128.23%
医療損益	46,114,000	-214,704,651	-159,316,694	-260,818,651	-55,387,957	34.77%
純損益	236,152,000	-183,834,309	123,984,614	-419,986,309	-307,818,923	-248.27%

貸 借 対 照 表

平成29年 3月31日

(施設名) 横浜市立みなと赤十字病院

(単位: 円)

資 産 の 部			負 債 及 び 基 金 の 部		
1. 流動資産			1. 流動負債		
現金		5,778,986	買掛金	1,182,809,590	
預金		2,514,822,501	未払金	1,212,154,976	
医業未収金	3,228,795,693		短期借入金	837,600,000	
貸倒引当金	47,031,637	3,181,764,056	未払費用	88,620,038	
未収金		100,420,320	未払法人税等	0	
有価証券		0	前受金	25,205,582	
医薬品		69,598,264	預り金	8,240,090	
診療材料		0	職員預り金	66,391,219	
給食材料		2,769,117	前受収益	0	
貯蔵品		125,692	賞与引当金	364,599,160	
前渡金		0	その他の流動負債	176,879,131	
前払費用		28,990,970	流動負債合計		3,962,499,786
未収収益		3,498,957			
短期貸付金		0	2. 固定負債		
繰延税金資産		0	長期借入金	1,714,400,000	
その他の流動資産		192,872,117	長期未払金	126,706,670	
流動資産合計		6,100,640,980	預り出資金	0	
			退職交付受入金	0	
2. 固定資産			退職給付引当金	3,269,631,963	
(1) 有形固定資産			医療訴訟引当金	0	
建物	128,259,810		長期前受補助金等	255,698,273	
建物減価償却累計額	18,479,536	109,780,274	その他の固定負債	0	
建物付属設備	617,284,955		固定負債合計		5,366,436,906
建物付属設備減価償却累計額	230,193,779	387,091,176			
構築物	20,522,740		負債合計		9,328,936,692
構築物減価償却累計額	7,975,316	12,547,424			
医療用器械備品	7,101,198,996		3. 基本金		15,986,453
医療用器械備品減価償却累計額	5,862,218,230	1,238,980,766			
その他の器械備品	574,236,427		4. 基金積立金		
その他の器械備品減価償却累計額	493,206,125	81,030,302	本社交付金	0	
車両	21,121,030		支部繰入金	0	
車両減価償却累計額	18,230,343	2,890,687	その他の繰入金	0	
放射性同位元素	0		補助金	0	
放射性同位元素減価償却累計額	0	0	寄付金	54,040,000	
その他の有形固定資産	55,371,500		固定資産再評価益(損)金	2,566,395	
その他の有形固定資産減価償却累計額	5,779,552	49,591,948	固定資産処分益(損)金	0	
土地		0	基金積立金合計		56,606,395
建設仮勘定		0			
有形固定資産合計		1,881,912,577	5. 利益剰余金		
			利益積立金	29,130,000	
(2) 無形固定資産			特別積立金	0	
借地権		0	当期末処分利益(損失)	369,477,346	
ソフトウェア	34,062,687		利益剰余金合計		398,607,346
その他の無形固定資産	93,625				
無形固定資産合計		34,156,312	6. 有価証券評価差額金		0
(3) その他の資産			基金合計		471,200,194
有価証券		0			
長期貸付金		111,600,000			
預金		0			
長期未収金		0			
長期前払費用		3,788,820			
施設整備準備積立金		0			
病院建物建設資金出資金		620,096,804			
病院財政調整事業資金出資金		300,982,532			
出資金		217,850			
退職拠出金		746,681,481			
預託金		59,530			
繰延税金資産		0			
その他の固定資産		0			
その他の資産合計		1,783,427,017			
固定資産合計		3,699,495,906			
資産合計		9,800,136,886	負債及び基金合計		9,800,136,886

平成28年度キャッシュ・フロー計算書

(単位:円)

	金額
1. 業務活動によるキャッシュ・フロー	
税引前当期純利益	-183,834,309
減価償却費	610,637,995
所有有形固定資産減価償却費	435,172,983
リース有形固定資産減価償却費	161,903,177
所有無形固定資産減価償却費	13,561,835
リース無形固定資産減価償却費	0
長期前払費用減価償却費	1,092,000
貸倒引当金の増減	105,640
賞与引当金の増減	36,575,742
医療訴訟引当金の増減	0
退職給付引当金の増減	286,793,222
退職拠出金の増減	-162,474,328
退職交付受入金の増減	0
その他の引当金の増減	0
施設設備補助金等収益	-47,474,391
受取利息	-972,460
支払利息	17,293,069
有形固定資産売却損	0
有形固定資産除却損	1,058,009
無形固定資産売却損	0
無形固定資産除却損	0
前期損益修正損	0
固定資産取得価額修正	0
減価償却費修正	0
その他	0
その他特別損失	0
有形固定資産売却益	0
無形固定資産売却益	0
前期損益修正益	0
固定資産取得価額修正	0
減価償却費修正	0
その他	0
その他特別利益	-2,257,353
医業未収金の増減	60,521,092
未収金の増減	-15,616,698
医薬品の増減	2,163,383
診療材料の増減	0
給食用材料の増減	-329,106
貯蔵品の増減	264,912
前渡金の増減	0
前払費用の増減	-3,270,349
未収収益の増減	86,656
その他流動資産の増減	-43,798,118
買掛金の増減	-10,290,874
未払金の増減	143,681,813
未払費用の増減	13,031,595
前受金の増減	25,205,582
預り金の増減	2,204,778
職員預り金の増減	8,664,636
前受収益の増減	0
その他の流動負債の増減	175,704,631
その他	28,200,000
小計	942,966,769
利息の受取額	1,221,627
利息の支払額	-17,293,069
法人税等の支払額	0
業務活動によるキャッシュ・フロー(A)	926,895,327

2. 投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	-500,000,000
定期預金の払戻による収入	1,500,000,000
有価証券の取得による支出	0
有価証券の償還等による収入	0
所有有形固定資産の取得による支出	-375,287,608
所有有形固定資産の売却による収入	0
所有無形固定資産の取得による支出	-3,291,138
所有無形固定資産の売却による収入	0
長期前払費用の取得による支出	-512,820
施設設備補助金等の受入による収入	8,182,678
短期貸付金の増減	0
長期貸付による支出	-33,300,000
長期貸付金の回収による収入	5,000,000
病院建物建設資金出資金の払込による支出	-37,600,878
病院建物建設資金出資金の返還による収入	0
病院財政調整事業資金出資金の払込による支出	-18,804,976
病院財政調整事業資金出資金の返還による収入	0
出資金の払込による支出	0
出資金の返還による収入	0
預託金の預入による支出	0
預託金の払戻による収入	0
その他の固定資産による支出	0
その他の固定資産による収入	0
その他	9,625
投資活動によるキャッシュ・フロー(B)	544,394,883
3. 財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の増減	-200,000,000
長期借入による収入	100,000,000
長期借入金の返済による支出	-337,600,000
リース債務未払金の返済による支出	-139,710,255
預り出資金の受入による収入	0
預り出資金の払戻による支出	0
その他の固定負債による支出	0
その他の固定負債による収入	0
財務活動によるキャッシュ・フロー(C)	-577,310,255
4. 現金及び現金同等物の増加額(A+B+C)	893,979,955
5. 現金及び現金同等物期首残高	1,626,621,532
6. 現金及び現金同等物期末残高	2,520,601,487

※ 病院収益合計	20,153,199,612
※ 病院費用合計	20,337,033,921
※ 法人税等計	0